SHARP

取扱説明書

デジタルハイビジョンレコーダー

形名 DV-HRD3（ディー ブイ エイチ アール ディー）

形名 DV-HRD30（ディー ブイ エイチ アール ディー）

形名 DV-HRD300（ディー ブイ エイチ アール ディー）

1. 接続・準備編

はじめにお読みください。
操作については別冊の取扱説明書 2. 操作編 をご覧ください。

本体イラストは、DV-HRD300を例に記載しています。

SPATIALIZER® N-2-2™
G-CODE®

Gコードは、ジェムスター社の登録商標です。

お買いあげいただき、まことにありがとうございました。
この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- ご使用の前に、「安全にお使いいただくために」を必ずお読みください。(7ページ)
- この取扱説明書および、別冊の取扱説明書 2. 操作編 は、保証書とともに、いつでも見ることができる所に必ず保存してください。
- 製造番号は、品質管理上重要なものですから、商品本体に表示されている製造番号と保証書に記入されている製造番号とが一致しているか、お確かめください。

- お客様登録のご案内
  お買い上げいただきました製品につきましては「お客様登録」をお願いいたします。詳しくは、裏表紙をご覧ください。

はじめに
本機の付属品や、本機を正しくお使いいただくための注意事項について説明しています。

接続・準備
接続の予備知識、アンテナ・テレビ・外部機器との接続のしかた、リモコンの準備について説明しています。

設定
時計合わせ、初期設定、接続設定、チャンネル設定など、本機をお使いになる前に必要な設定について説明しています。

こんなときは
困ったときに確認する項目を説明しています。

最初にお読みください

取扱説明書は2冊あります。取扱説明書に記載してある 1. 接続・準備編 は本書を指します。

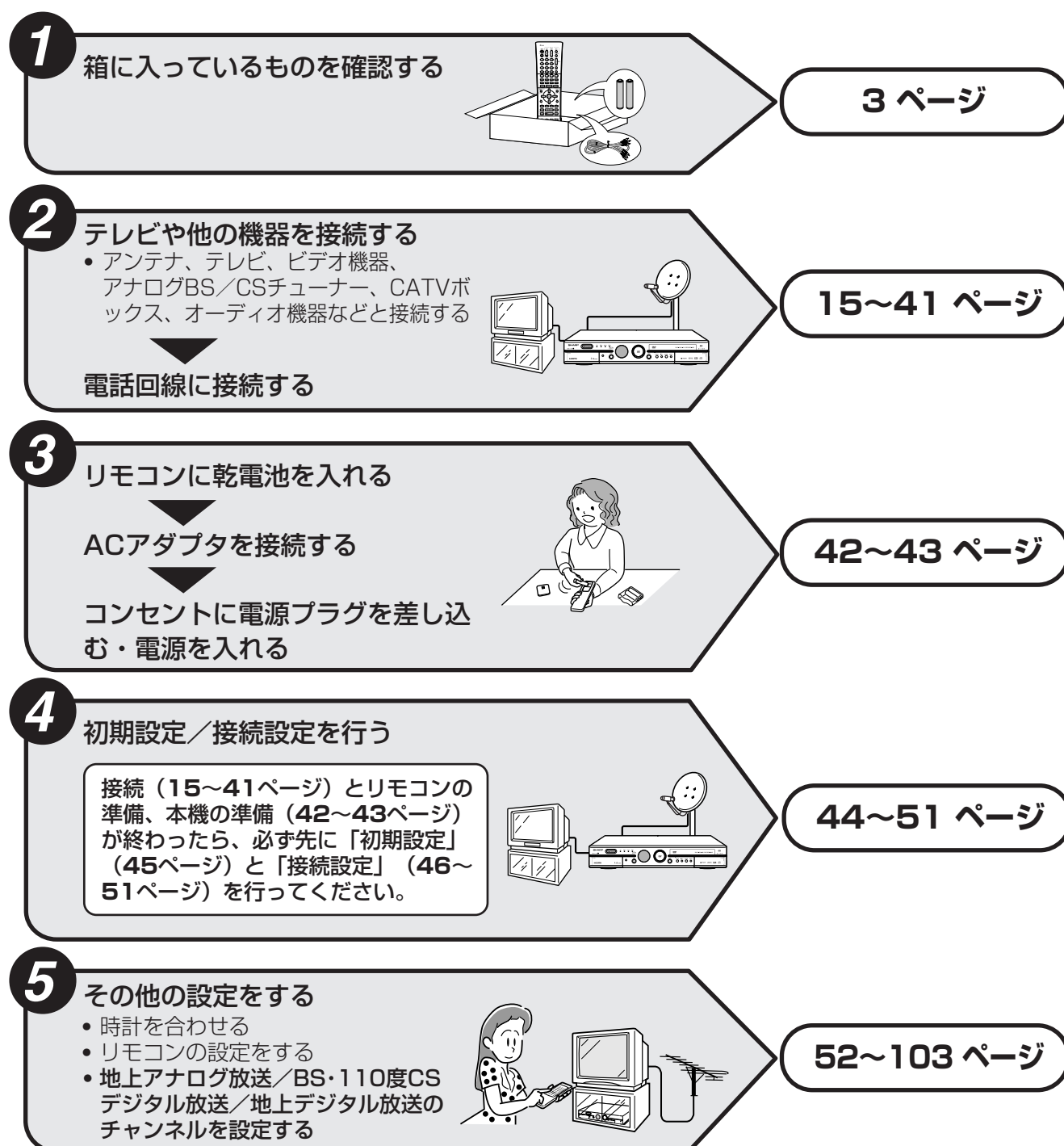
2. 操作編 は別冊の取扱説明書（2.操作編）を指します。

最初に本書 1. 接続・準備編 をお読みになってから 2. 操作編 をお読みください。

※ 取扱説明書では、「デジタルハイビジョンレコーダー　DV-HRD3／DV-HRD30／DV-HRD300」を「本機」と表現しています。

※ 取扱説明書に掲載しているイラストは、DV-HRD300を例にしています。また、説明のため簡略化していますので、実際のものとは多少異なる場合があります。

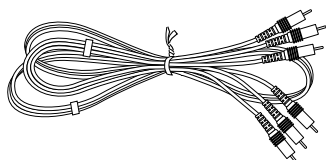
※ DV-HRD3は、HDMI端子を装備しておりません。

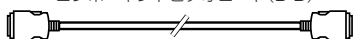
1. 接続・準備編では、本機の接続方法と、最初に必要な設定を説明しています。

付属品

- 箱を開けて、本機とつぎの付属品が揃っているか確認してください。
- B-CASカードは開封すると添付されている契約約款に同意したとみなされます。
  開封前に必ず契約約款をよくお読みください。

リモコン×1個、単4形乾電池×2個

使いかた→**42**ページ

映像・音声コード(約1m20cm)×1本

D映像ケーブル(約1m50cm)×1本

コンポーネントビデオコード(D-D)

取扱説明書 1. 接続・準備編 (本書)
取扱説明書 2. 操作編 (別冊)
接続・操作早見ガイド

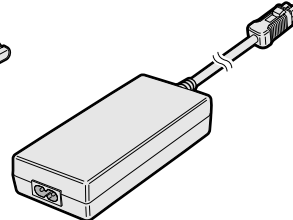
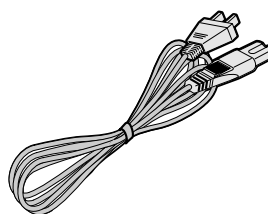
アンテナケーブル(約1m20cm)(両側F接栓ケーブル)×2本

B-CASカード×1枚

使いかた→**70**ページ

(B-CASカードユーザー登録はがき、B-CASカード使用許諾契約約款付き)

電源コード(約2m)/ACアダプタ

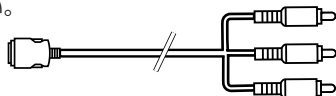
使いかた→**43**ページ

電話線(10m)×1本、モジュラー分配器×1個

使いかた→**41**ページ

保証書

- 本機の保証書は、本機の梱包箱に貼り付けています。

- S映像入力端子付きテレビと接続するときは、市販のS映像コードをお使いください。

- コンポーネント入力端子付きテレビと接続するときは、市販のコンポーネントビデオコード(D-3ピン)をお使いください。

- HDMI入力端子付きテレビと接続するときは、市販のHDMIケーブルをお使いください。

もくじ

はじめに

最初にお読みください 2
付属品 3
もくじ 4
本機の取り扱いに関するご注意とお知らせ 6
安全にお使いいただくために 7
使用上のご注意 12

接続・準備

接続の予備知識 15
各入出力端子とおもに接続する機器 16
アンテナやAV機器を接続する手順 18
アンテナ線を接続する 19
- 基本的な接続（地上アナログ放送を見る・録画する）19
- 基本的な接続（地上デジタル放送を見る・録画する）........ 20
  - 地上デジタル放送だけを見る・録画する 20
  - VHF/UHF放送と地上デジタル放送を見る・録画する 21
- 基本的な接続（BS・110度CSデジタル放送を見る・録画する）........ 22
  - 壁のアンテナ端子がBS・VHF/UHF混合の場合 22
  - 地上アナログ放送、地上デジタル放送とBS･110度CSデジタル放送を見る･録画する ... 23

映像・音声端子と接続機器 24
テレビと接続する 26
- D映像入力端子付きテレビと接続するとき 26
- コンポーネント映像（色差）入力端子付きテレビと接続するとき 27
- S映像コード（市販品）で接続するとき／映像・音声コード（付属品）で接続するとき 28
- HDMI端子付きのテレビと接続するとき（DV-HRD300/DV-HRD30）........ 29
- ディスプレイとチューナーが別々になったテレビと接続するとき 30

ビデオデッキとの接続（ビデオテープの内容を録画する）........ 32
アナログBS/CSチューナーとの接続 34
CATVボックスとの接続 36
オーディオ機器との接続 38
電話回線に接続する 40
リモコンと本機の準備 42
- リモコンに乾電池を入れる 42
- リモコンの操作範囲 42
- ACアダプタを接続する 43
- 電源を入れる／切る 43

設定

はじめてお使いになるときの設定 44
初期設定をする（タイムシフト設定）........ 45
接続設定をする（かんたん接続設定）........ 46
- ハイビジョン対応テレビと接続したときの設定をする 46
- 通常のテレビと接続したときの設定をする 48
- HDMI端子付きテレビと接続したときの設定をする（DV-HRD300/DV-HRD30）..... 50
- オーディオ機器と接続したときの設定をする 51

時計を合わせる（日付・時刻設定）............ 52
本機のリモコンでテレビを操作する（メーカー指定）.. 54
リモコン番号を設定する 55
VHF／UHFのチャンネル設定（地上アナログ放送）.. 56
- 受信チャンネル設定のすすめかた 56
- 地域番号で自動設定する 57
- 一局ずつ手動で設定する 58
- 「個別設定」で設定したチャンネルを、Gコード®で予約するときは 61

地域番号早見表／一覧表 62
- 地域番号早見表....................................... 62
- 地域番号一覧表....................................... 63

地上、BS・110度CSデジタル放送を視聴するための準備 67
- デジタル放送のチャンネル設定の手順... 67
- 地上、BS・110度CSデジタル放送を見るためには 68
- B-CASカードについて 70
- BS・110度CS共用アンテナの設定 .. 72
- アンテナ・信号テストをする 73
- 電話回線の設定...................................... 74
- 電話会社設定 77
- 地域と郵便番号を設定する 78

地上デジタル放送を視聴するための準備 79
- 地上デジタル放送のチャンネル設定について 79
- 地上デジタル放送のチャンネル設定の手順 80
- 地上デジタルチャンネルを自動設定する 81
- アンテナ・信号テストをする 82
- 地上デジタル放送の番組表取得設定をする 83
- 地上デジタル放送の電子番組表（EPG）情報を取得する...................................... 84

リモコンに登録されているチャンネルを確認する（BS・110度CSデジタル放送）....... 85
- チャンネルボタンにBS・110度CSチャンネルを追加登録する 86

リモコンに登録されているチャンネルを確認する（地上デジタル放送）........................... 87
- チャンネルを追加設定する 91

ソフトウェアキーボードについて 92
- 文字を入力する...................................... 94

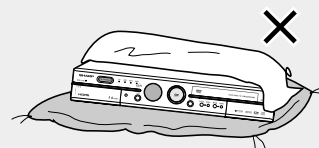
プロバイダ設定を行う 96
LAN設定を行う 98
- LAN設定を行う 99
- 優先利用回線設定................................ 102

こんなときは

故障かな？と思ったら 104
用語の解説..106
さくいん.. 107

本機の取り扱いに関するご注意とお知らせ ///

設置時のお願い

- 本体後面にあるファンや通風孔をふさがないでください。ファンや通風孔をふさぐと放熱の妨げとなり、故障の原因となります。

使用時のお知らせ

- 本機をご使用中、使用環境によっては本体（キャビネット）の温度が若干高くなりますが故障ではありません。安心してお使いください。
- 「設置調整」の「アンテナ設定」で「電源・受信強度表示」のBS・CSアンテナ電源を「入」に設定している場合は、本機の電源を切っても本体やキャビネットが多少温かくなります。
- 「使用上のご注意」（**12**～**14**ページ）もご覧ください。

アナログ放送からデジタル放送への移行について

- **デジタル放送への移行スケジュール**

  地上デジタル放送は、関東、中京、近畿の三大広域圏の一部で2003年12月から開始され、その他の地域でも、2006年末までに放送が開始される予定です。該当地域における受信可能エリアは、当初限定されていますが、順次拡大される予定です。地上アナログ放送は2011年7月に、BSアナログ放送は2011年までに終了することが、国の方針として決定されています。
- **アナログ放送受信チューナー内蔵の録画機器でデジタル放送を録画するには**

  別売りのデジタルチューナーまたはデジタルチューナー内蔵テレビと、お手元の録画機器を接続することにより、デジタル放送を録画していただけます。ただし、録画機器の種類により、接続方法は異なります。また、録画機器により録画画質は異なります。番組によっては、著作権保護の目的により、録画や一度録画した番組のダビングができない場合があります。

本機の電源について

- 衛星からの情報をハードディスク（HDD）に取り込むため、電源プラグは差し込んだままにしてください。
- 移動などで電源プラグを抜く場合は、ハードディスク（HDD）保護のため、電源を切った状態（本体の電源ボタンの待機ランプが赤色点灯）で行ってください。
- 電源を入れると冷却のためファンが回転します。
- 電源プラグをコンセントに差し込んだ直後や、停電からの復帰後は、電源を「入」にしても、システム調整のため数十秒程度は動作しない場合があります。
- 電源を切っていても次のような場合は内部の電源が入っているため通信中ランプが点灯し、冷却ファンが回転します。
  - 「スタートメニュー」ー「各種設定」ー「視聴・再生設定」ー「チャンネル設定」ー「地上デジタルチャンネル設定」で「番組表取得設定」が「する」に設定されているときは、電源を切ると番組表データを取得するため約30分本体内部の電源が入った状態となります。
  - B-CASカードに記録される契約状況・番組購入データは、定期的に電話回線を通じ、（株）B-CASへ自動送信されます。

    電源を切っていても番組購入情報の送受信中などのときは、本体内部の電源が入った状態となります。
  - 本機がB-CASカードの内容を確認しているときは、本体内部の電源が入った状態となります。

安全にお使いいただくために

この取扱説明書には、安全にお使いいただくためにいろいろな表示をしています。その表示を無視して誤った取り扱いをすることによって生じる内容を、次のように区分しています。内容をよく理解してから本文をお読みになり、記載事項をお守りください。

人が死亡または重傷を負うおそれがある内容を示しています。

人がけがをしたり財産に損害を受けるおそれがある内容を示しています。

図記号の意味

気をつける必要があることを表しています。

してはいけないことを表しています。

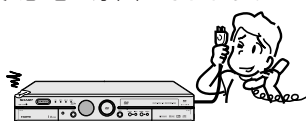
しなければならないことを表しています。

警告

煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のときは電源プラグを抜く

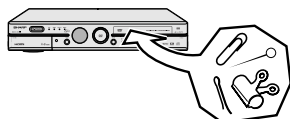
- 異常状態のまま使用すると、火災・感電の原因となります。電源プラグをコンセントから抜いて、販売店に修理を依頼してください。お客様による修理は危険ですから絶対おやめください。

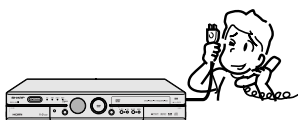
電源プラグを抜く

- 本機を落としたり、キャビネットを破損した場合は、機器本体の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

電源プラグを抜く

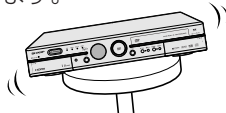
内部に物や水などを入れない

- 本機の開口部（通風孔やディスクトレイ開閉口など）から内部に金属類や燃えやすいものなどを差し込んだり、落とし込んだりしないでください。火災・感電の原因となります。特にお子様のいるご家庭ではご注意ください。

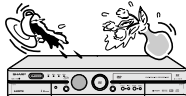
禁止

- 異物や水が本機の内部に入った場合は、電源プラグをコンセントから抜いて販売店にご連絡ください。そのまま使用すると火災・感電の原因となります。

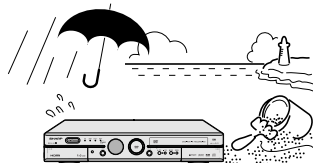
電源プラグを抜く

不安定な場所に置かない

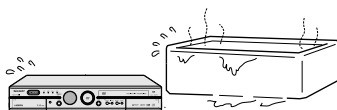
- ぐらついた台の上や傾いた所など、不安定な場所に置かないでください。落ちたり、倒れたりして、けがの原因となります。

禁止

本機の上には花びん、水などの入った容器を置かない

- 水がこぼれたり、中に入った場合、火災・感電の原因となります。

水ぬれ禁止

- 水を入れたり、ぬらしたりしないでください。火災・感電の原因となります。雨天、降雪中、海岸、水辺での使用は特にご注意ください。

水ぬれ禁止

- 風呂、シャワー室では使用しないでください。火災・感電の原因となります。

風呂、シャワー室での使用禁止

表示された電源電圧で使用する

- 表示された電源電圧（交流100ボルト）以外で使用すると、火災・感電の原因となります。

100V使用

⚠警告

雷が鳴り出したらアンテナ線や電源プラグには触れない

- 感電の原因となります。

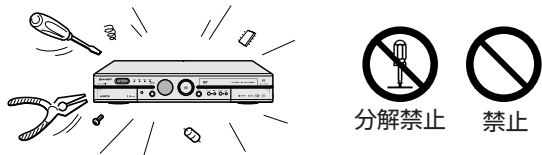
接触禁止

キャビネットは絶対に開けない

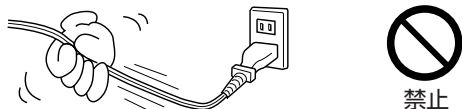
- 感電の原因となります。内部の点検･調整･修理は販売店にご依頼ください。

分解禁止

- 本機を分解したり改造したりしないでください。発熱･発火･感電･けがの原因となります。またレーザー光が目に当たると視力障害を起こす原因となります。

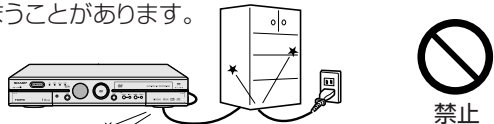
分解禁止
禁止

電源コードを破損するようなことはしない

- 電源コードを傷つけたり、加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。電源コードが破損して火災･感電の原因となります。

禁止

- 電源コードが傷んだら（芯線の露出、断線など）販売店に交換をご依頼ください。そのまま使用すると火災･感電の原因となります。

交換を依頼する

- 電源コードの上に重いものをのせたり、コードが本機の下敷きにならないようにしてください。コードに傷がついて、火災･感電の原因となります。コードの上を敷物などで覆うことにより、それに気付かず、重い物をのせてしまうことがあります。

禁止

電源プラグの刃および刃の付近にほこりや金属物が付着している場合は乾いた布で取り除く

- そのままで使用すると火災･感電の原因となります。

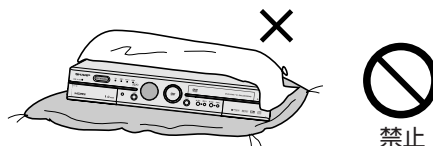
ほこりを取る

⚠注意

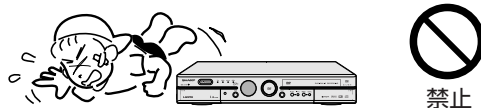
本機の通風孔をふさがない

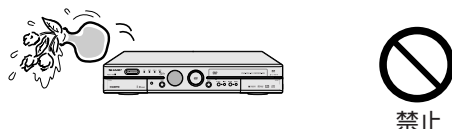
通風孔をふさぐと内部に熱がこもり、火災の原因となることがあります。次のような使いかたはしないでください。

- 本機を押し入れ、専用のラック以外の本箱など風通しの悪い狭い所に押し込む。
- テーブルクロスを掛けたり、じゅうたんや、布団の上に置く。
- あお向けや横倒し、逆さまにする。（動作姿勢水平）

禁止

重いものを置かない

- 本機に乗らないでください。倒れたり、こわれたりして、けがの原因となることがあります。特に、小さなお子様のいるご家庭ではご注意ください。

禁止

- 本機の上に重いものを置かないでください。バランスがくずれて倒れたり、落下して、けがの原因となることがあります。

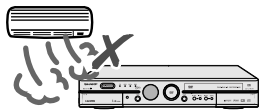
禁止

油煙、湯気、湿気、ほこりなどが多い場所に置かない

- 調理台や加湿器のそばなど油煙や湯気が当たるような場所に置かないでください。火災･感電の原因となることがあります。

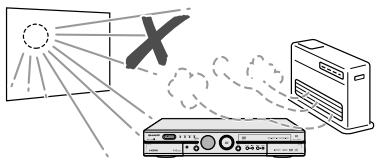
禁止

⚠ 注意

冷気が直接吹き付ける所や極端に寒い所には置かない

- つゆがつき、漏電、焼損、故障や事故の原因となることがあります。

注意

直射日光の当たる場所や温度の高い場所に置かない

- 内部の温度が上がり、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

電源コードを熱器具に近づけない

- コードの被覆が溶けて、火災・感電の原因となることがあります。

禁止

移動させるときは必ず接続コードを外す

- 移動させる場合は電源スイッチを切り、必ず電源プラグをコンセントから抜き、アンテナ線や機器間の接続コードなど外部の接続コードを外したことを確認の上、行なってください。接続したまま持ち運ぶとコードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。
  またディスクは取り出しておいてください。

電源プラグを抜く

- 移動させるときは、落としたり、衝撃を与えないでください。けがや故障の原因となることがあります。

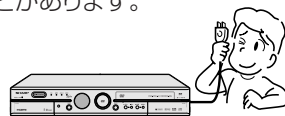
禁止

お手入れのときは電源プラグを抜く

- 安全のため電源プラグをコンセントから抜いて行なってください。感電の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

テレビ、オーディオ機器などに接続するときは、本機の電源プラグを電源コンセントから抜く

- 電源を入れたまま接続すると、感電やけがの原因となることがあります。

電源プラグを抜く

電源プラグを抜くときは電源コードを引っ張らない

- コードが傷つき、火災・感電の原因となることがあります。必ず電源プラグを持って抜いてください。

禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない

- 感電の原因となることがあります。

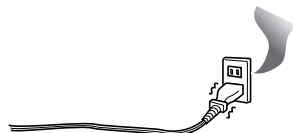
ぬれ手禁止

電源プラグはコンセントに根元まで確実に差し込む

- 差し込みが不完全なときは、発熱したり、ほこりが付着して火災の原因となることがあります。
- 金属の部分にふれると感電の原因となることがあります。

確実に差し込む

電源プラグを根元まで差し込んでもゆるみがあるときはコンセントに接続しない

- 発熱して火災の原因となることがあります。販売店や電気工事店にコンセントの交換を依頼してください。

禁止

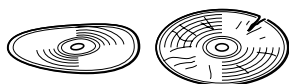
ディスクトレイに指を挟まれないように注意する

- 小さなお子さまがディスクトレイ開閉口に、手を入れないようご注意ください。けがの原因となることがあります。

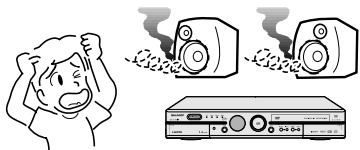
指のケガに注意

⚠ 注意

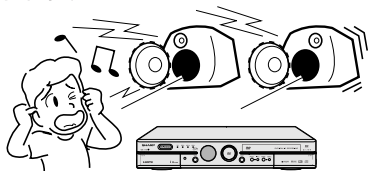
ひび割れ、変形、または接着剤などで補修したディスクは使用しない

● 飛び散ってけがの原因となることがあります。

禁止

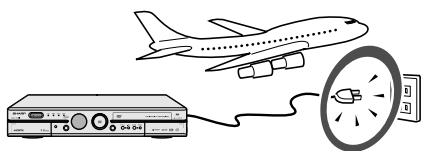
長時間、音が歪んだ状態で使わない

● スピーカーが発熱し、火災の原因となることがあります。

禁止

電源を入れる前にはテレビやアンプの音量を最小にする

● 突然大きな音が出て聴力障害などの原因となることがあります。

音量を小さく

旅行などで長時間ご使用にならないときは電源プラグを抜く

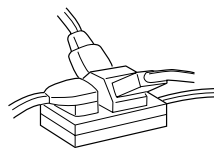
● 安全のため必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

電源プラグを抜く

3年に一度くらいは本機内部の清掃を販売店に依頼する

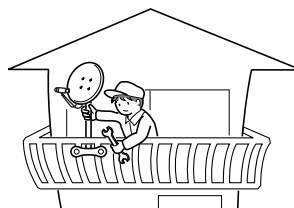
● 本機の内部にほこりがたまったまま、長い間掃除をしないと火災や故障の原因となることがあります。特に、湿気の多くなる梅雨期の前に行なうと、より効果的です。なお、内部掃除費用については、販売店などにご相談ください。

注意

タコ足配線をしない

● 感電･火災の原因となることがあります。

禁止

アンテナ工事には技術と経験が必要ですので、電気工事店などにご相談ください

● 送配電線から離れたところに設置してください。アンテナが倒れた場合、感電の原因となることがあります。
アンテナは強風の影響を受けやすいので、堅固に取り付け設置してください。

ご相談ください

重要

● お客さままたは第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

⚠ 注意

電池についての安全上のご注意

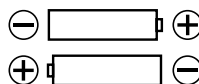
液もれ・破裂・発熱による大けがや失明を避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

電池は幼児の手の届く所に置かない

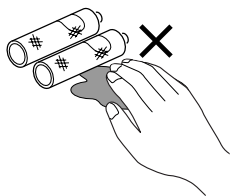
- 電池は飲み込むと、窒息の原因や胃などに止まると大変危険です。飲み込んだ恐れがあるときは、ただちに医師と相談してください。

禁止

電池はプラス⊕とマイナス⊖の向きに注意し、機器の表示どおり正しく入れる

- 間違えると電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

電池の液が漏れたときは素手でさわらない

- 電池の液が目に入ったときは、失明の恐れがありますので、こすらずにすぐにきれいな水で洗ったあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- 皮膚や衣類に付着した場合は皮膚に障害を起こす恐れがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。皮膚の炎症など障害の症状があるときは、医師に相談してください。

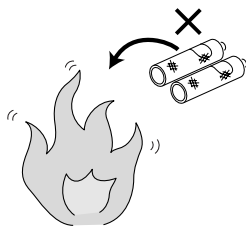
禁止

指定以外の電池を使わない。新しい電池と古い電池または種類の違う電池を混ぜて使わない

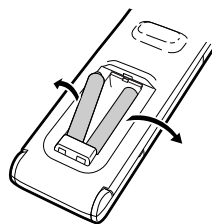
- 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

電池は火や水の中に投入したり、加熱・分解・改造・ショートしない。乾電池は充電しない

- 電池の破れつ・液もれにより、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

禁止

電池を使い切ったときや、長時間使わないときは、電池を取り出す

- 電池を入れたままにしておくと、過放電により液がもれ故障、火災・けがや周囲を汚損する原因となることがあります。

使用上のご注意

重要　必ずお読みください

■ 大切な録画の場合は……… 事前に試し録りをするなど、機器が正常に働くことを確認してから行ってください。大切な映像はハードディスク(HDD)に録画したままではなく、DVD(DVD-RW/-R)にダビング保存しておくことをおすすめします。

■ 録画(録音)内容の補償はできません…………. 万一何らかの原因で本機が故障し、データが消失した場合、または不具合により録画・録音されなかった場合の録画・録音内容の補償については、ご容赦ください。

■ 著作権について……………. あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。また、著作権保護のための信号が記録されている放送番組の録画・録音はできません。

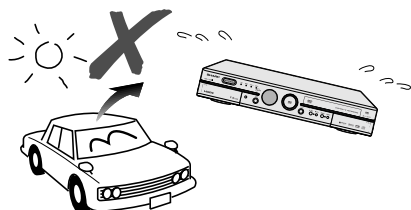
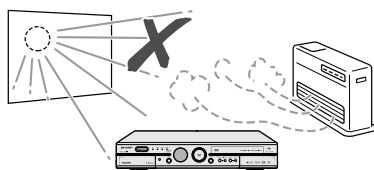
■ 録画防止機能について….. 本機は、複製防止機能(コピーガード)を搭載しており、著作権などによって複製を制限する旨の信号が記録されているソフト及び放送番組は録画することができません。

■ 保証について………………. 本機を分解しますと、保証が無効になります。

ご注意

・お客さままたは第三者がこの製品の使用誤り、使用中に生じた故障、その他の不具合またはこの製品の使用によって受けられた損害については、法令上賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切その責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

高温の場所で使用しないでください

● 窓を閉めきった自動車の中など異常に温度が高くなる場所に放置すると、キャビネットが変形したり、故障の原因となることがあります。本機およびディスクの周囲が高温状態にならないよう十分ご注意ください。

● 発熱する機器の上には本機を置かないでください。
● 直射日光が当たる場所や熱器具の近くに置かないでください。キャビネットや部品に悪い影響を与えますのでご注意ください。

本体後面のファンや通風孔をふさがないでください

● 本体を設置する際は、本体後面のファンや通風孔をふさがないでください。放熱を妨げ、故障の原因となります。特にテレビ台やAVラック等に収納して設置するときはご注意ください。
● 毛足の長い敷物やベッド、ソファーの上などで使用したり本機を布などでくるんで使用しないでください。放熱を妨げ、故障の原因となります。

ほこりや煙を避けてください

● 不安定な場所や振動の多い場所やほこり・タバコの煙の多い場所には置かないでください。故障や事故の原因になります。

設置するときは水平に置いてください

● 立てて置いたり、逆さまにするなどしたときは故障の原因となります。

本機の上には物を乗せないでください

● 本機の上のスペースが十分とれる場所に設置してください。
● 本機の上に、物を置かないでください。画面にノイズが出たり、キャビネットに傷がつく、キャビネットが変形するなど故障の原因となります。

取扱いはていねいに

● 落下させたり、強い衝撃や振動を与えたりしないでください。故障の原因となります。持ち運びや移動の際にもご注意ください。

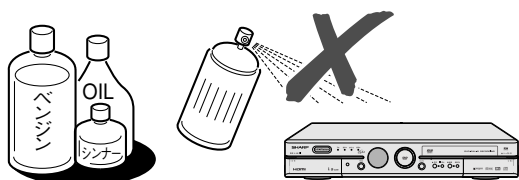
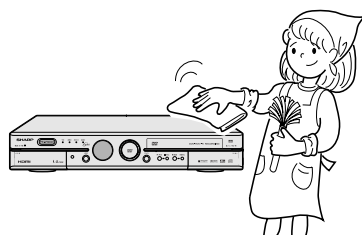
引っ越しや輸送のときは

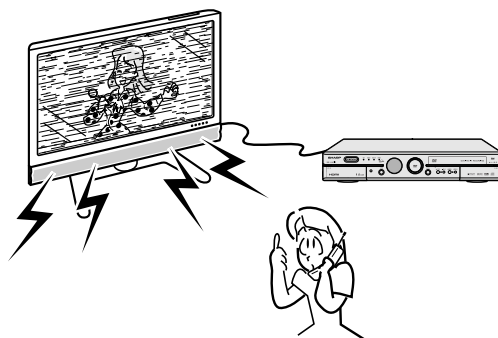
● ディスクを取り出してから梱包してください。
また、ふだんご使用にならないときも、ディスクを取り出してから、電源を切ってください。

結露(つゆつき)について

- 本機を寒い場所から急に暖かい場所に持ち込んだときや、冬の朝など暖房を入れたばかりの部屋などで、本機の表面や内部に結露が起こることがあります。結露が起きたときは、結露がなくなるまで電源を入れずに放置してください。そのままご使用になると故障の原因になります。

キャビネットのお手入れについて

- キャビネットの表面はプラスチックが多く使われています。ベンジン、シンナーなどでふいたりしますと変質したり、塗料がはげることがありますので避けてください。

- キャビネットに殺虫剤など揮発性のものをかけたりしないでください。また、ゴムやビニール製品・合成皮革などを長時間接触させたままにしないでください。塗料がはげるなどの原因となります。
- ステッカーやテープなどを貼らないでください。キャビネットの変色や傷の原因となることがあります。
- キャビネットや操作パネル部分の汚れはネルなど柔らかい布で軽くふき取ってください。汚れがひどいときは水でうすめた中性洗剤にひたした布をよく絞ってふき取り、乾いた布でからぶきしてください。
  強力な洗剤を使用した場合、変色、変質、塗料がはげる場合があります。目立たない場所で試してから、お手入れすることをおすすめします。

電磁波妨害について

- 本機の近くで、携帯電話などの電子機器を使うと、電磁波妨害などにより、再生時や録画時に映像が乱れたり、雑音が発生することがあります。

アンテナについて

- 妨害電波の影響を避けるため、交通のひんぱんな自動車道路や電車の架線、送配電線、ネオンサインなどから離れた場所に立ててください。
  万一アンテナが倒れた場合の感電事故などを防ぐためにも有効です。
- アンテナ線を不必要に長くしたり、束ねたりしないでください。映像が不安定になる原因となりますのでご注意ください。BS・CSアンテナ用のケーブルは、必ず専用品を使用してください。
- アンテナは風雨にさらされるため、定期的に点検、交換することを心がけてください。美しい映像でご覧になれます。特にばい煙の多いところや潮風にさらされるところでは、アンテナが傷みやすくなります。映りが悪くなったときは、電気工事店などにご相談ください。

次ページへつづく ▶▶▶

ハードディスク（HDD）について

- 本機は、ハードディスク（HDD）に番組を記録します。ハードディスク（HDD）には衝撃や振動、ほこりからデータを守るための安全機構が組み込まれていますが、記録したデータを失ってしまうことのないよう、つぎの点に特にご注意ください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 振動する場所や不安定な場所では使用しないでください。
  - 電源を入れたまま本機を動かさないでください。
  - 録画中や再生中は、電源プラグをコンセントから抜いたりしないでください。電源を「切」にしてから電源プラグをコンセントから抜き差ししてください。
  - 急激な温度変化（毎時10℃以上の変化）のある場所では使用しないでください。
  - 寒い場所（5℃以下）や極端に暑い場所（35℃以上）での使用は、故障の原因となります。
  - 寒いところから暖かい部屋に持ちこんで使用する場合は、しばらく放置してからお使いください。
  - 極端に寒い場所で本機を使用するときは、ハードディスク保護のため（暖機のため）にハードディスクの準備が必要です。電源を入れてから使用できるまで、しばらく時間がかかります。
    ハードディスクの保護のため、使用温度範囲内でのご使用をお願いいたします。
- 万が一何らかの原因でハードディスク（HDD）が故障した場合、ご自分で交換することはできません。本機を分解しますと、保証が無効になります。お早めにお買い上げの販売店、またはもよりのシャープ修理相談センター（2. 操作編 188ページ）にご連絡ください。なお、データが消失した場合、または録画・録音されなかった場合のデータ内容の補償については、ご容赦ください。

接続機器について

- 本機に接続して使用する機器の取扱説明書に記載されている「使用上のご注意」もよくご覧ください。

節電について

- 使い終わった後は電源を切り、節電に心掛けましょう。また旅行などで長期間ご使用にならないときは、安全のため電源プラグをコンセントから抜いておきましょう。

長期間ご使用にならないとき

- 長期間使用しないと機能に支障をきたす場合がありますので、ときどき電源を入れて作動させてください。

B-CASカードは必要なときだけ抜き差しする

- 必要以外に抜き差しすると故障の原因となることがあります。
- B-CASカードの中にはIC（集積回路）が内蔵されています。折り曲げたり、大きな衝撃を加えたり、端子部に触れないようご注意ください。
- 本機に差し込むときは「逆差し込み」や「裏差し込み」とならないよう、方向に注意して差し込んでください。

国外では使用できません

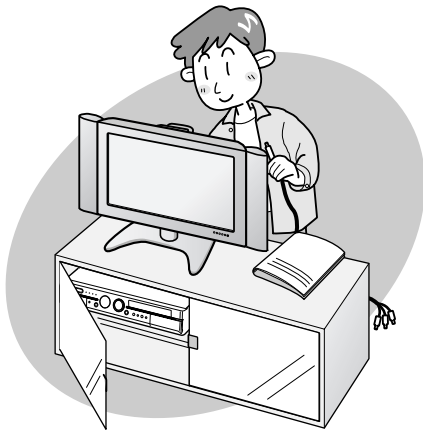
- 本機が使用できるのは日本国内だけです。外国では放送方式、電源電圧が異なりますので使用できません。

This product is designed for use in Japan only and cannot be used in any other country.

著作権について

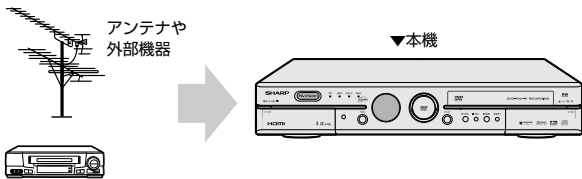
- あなたが録画・録音したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上権利者に無断で使用できません。
- この製品は、マクロヴィジョン社が保有する日本特許第1925090号および第2881432号の特許技術のライセンス供与により製造されたものであり、この製品での使用は一部のプログラム配信に限定されています。
- 本機には、マクロヴィジョン社および他の権利所有者が所有する合衆国特許および知的所有権によって保護された、著作権保護技術を搭載しています。この著作権保護技術の使用にはマクロヴィジョン社の許可が必要であり、同社の許可がない限りは一般家庭および、それに類似する限定した場所での視聴に制限されています。解析や改造は禁止されていますので行わないでください。
- 本機は、ドルビーラボラトリーズからの実施権に基づき製造されています。
- Dolby、ドルビーおよびダブルD（DD）記号は、ドルビーラボラトリーズの商標です。
- DTS、DTSデジタルサラウンドは、デジタルシアターシステムズ社の登録商標です。
- DVDはDVDフォーマットロゴライセンシング（株）の商標です。
- HDMI、HDMIロゴおよび高品位マルチメディアインターフェイスは、HDMI Licensing, LLCの商標または登録商標です。（DV-HRD3は、HDMI端子を装備しておりません。）

接続の予備知識

■ 本機と他の接続機器との接続に役立つワンポイント情報です。接続をはじめる前に、お読みください。

入力端子と出力端子

接続端子には、入力用と出力用の２種類があります。それぞれ、入力端子、出力端子と呼ばれます。
本機と他の接続機器の端子をつなぐときは、必ず同じ種類の信号の入力端子と出力端子をつないでください。
本機から見た場合､それぞれの端子は次の役割を持ちます。

入力端子

● 他の接続機器から信号を受け取り、本機に信号を入れる入口です。

出力端子

● 本機から信号を出し、他の接続機器に信号を渡す出口です。

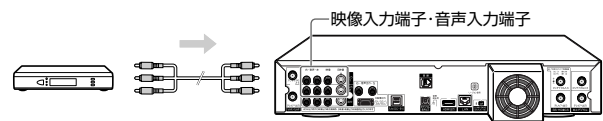
信号の受け渡し

本機でテレビ番組を録画する場合、録画するための映像や音声の信号を外から受け取る必要があります。
録画するための信号は、アンテナから受け取る場合と他の接続機器から受け取る場合があります。

アンテナから受け取る場合

● アンテナ線と本機のアンテナから入力端子をつなぎます。接続には、アンテナ線やアンテナケーブルを使います。

外部のチューナーなど他の接続機器から受け取る場合

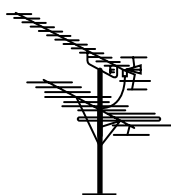
● 他の接続機器の映像出力端子を本機の映像入力端子につなぎます。同じく、音声出力端子を本機の音声入力端子につなぎます。接続には映像コードや音声コードを使います。

映像端子の種類

本機で使える映像端子には、５つの種類があります。

● 映像端子　：黄色の端子。
● S 映像端子：映像端子よりもきれいな映像が楽しめます。
● D 映像端子：プログレッシブ対応のD映像端子付きテレビと接続すると、S 映像端子よりもきれいで高解像度の映像が楽しめます。
● HDMI 端子（DV-HRD300／DV-HRD30）：映像と音声のデジタル信号を1本のケーブルでつなぐことができる新しい規格のデジタル専用端子です。HDMI ケーブル（市販品）を使うと、他の映像ケーブル･音声ケーブルを接続する必要はありません。
※ **DV-HRD3 は、HDMI 端子を装備しておりません。**
● i.LINK 端子：本機以外のi.LINK端子を持つ機器と接続して、デジタル映像やデジタル音声の信号を送受信できる端子です。i.LINK ケーブル（市販品）を使うと、D-VHS ビデオなどの映像を本機で録画したり、本機で受信した放送を D-VHS ビデオなどで録画することができます。

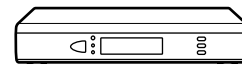
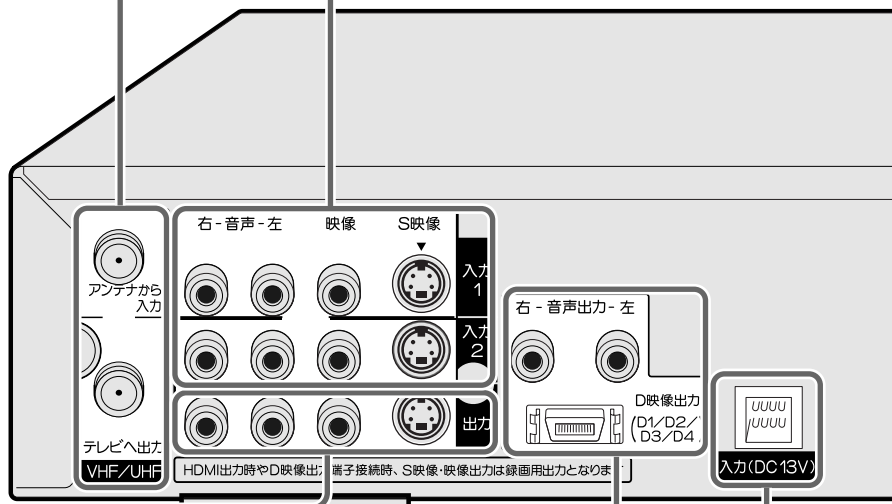
各入出力端子とおもに接続する機器

VHF/UHF アンテナから入力端子

ご家庭のアンテナ端子、またはテレビに接続されていたアンテナ線を接続します。（**19**ページ）

VHF/UHF テレビへ出力端子

テレビのVHF/UHFアンテナ端子に接続します。（**19**ページ）

入力1/入力2 端子

■S映像入力端子
■映像・音声入力端子
CATVボックス、ビデオデッキなどの機器と接続します。（**33・35・37**ページ）

※S映像出力端子のある機器と接続したときは、S映像コード（市販品）と、音声コード（付属品または市販品）を接続します。

出力端子

■S映像出力端子
■映像・音声出力端子
おもにテレビと接続します。（**28**ページ）

※S映像入力端子のあるテレビと接続するときは、S映像コード（市販品）と、音声コード（付属品または市販品）で接続します。

D映像出力端子

D映像入力端子（コンポーネント映像（色差）入力端子）のあるテレビと接続します。（**26・27**ページ）
※接続するときは、D映像ケーブル（コンポーネントビデオコード／D-Dタイプ、付属品）と、音声コード（付属品または市販品）で接続します。

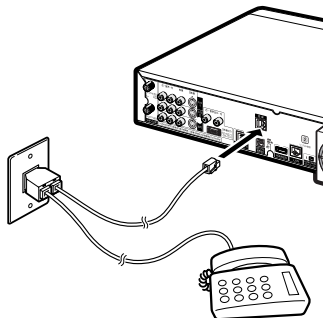
音声出力端子

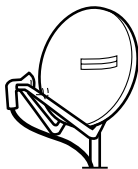
D映像出力端子に接続したとき、音声コードを接続します。

DC入力端子

付属のACアダプタを接続します。（**43**ページ）

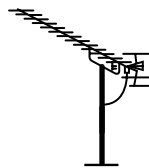
電話回線端子

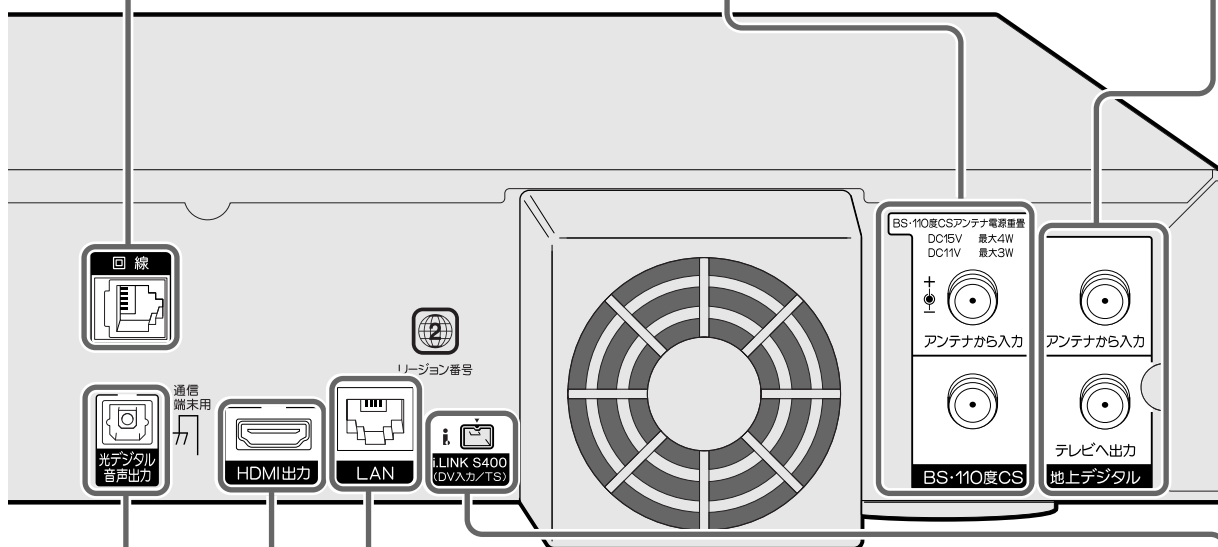
付属の電話回線を接続します。（**41**ページ）

BS・110度CSアンテナから入力端子

BS・110度CS共用アンテナを接続します。（**22**ページ）

BS・110度CSテレビへ出力端子

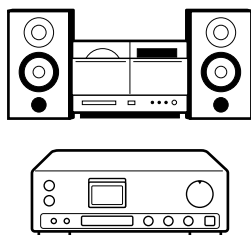
テレビのBS・110度CSアンテナ入力端子に接続します。（**22**ページ）

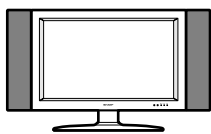
地上デジタルアンテナから入力端子

UHFアンテナ端子を接続します。（**20**・**21**ページ）

地上デジタルテレビへ出力端子

- テレビのアンテナ端子に接続します。（**20**・**21**ページ）
- 地上デジタル放送と地上アナログ放送の両方を受信したいときは、地上デジタルアンテナ出力端子をVHF/UHFアンテナ入力端子に接続します。

光デジタル音声出力端子

光デジタル入力端子のあるAVアンプ、MDデッキ、オーディオデコーダーなどの機器と接続します。（**39**ページ）

※接続するときは、光デジタルケーブル（市販品）で接続します。

HDMI出力端子※

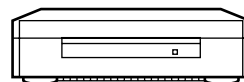
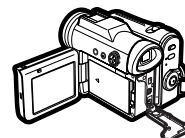
映像と音声のデジタル信号を1本のケーブルでつなぐことができる新しい規格のデジタル専用端子です。（**29**ページ）
(DV-HRD300/DV-HRD30)

※ DV-HRD3は、HDMI端子を装備しておりません。

LAN端子

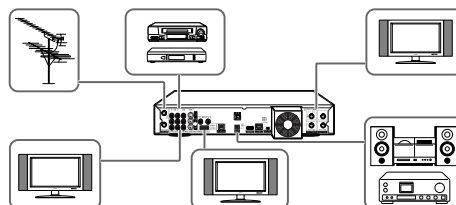
地上デジタル放送の双方向通信に使う端子です。インターネット接続環境があるご家庭で使用する場合などにLAN接続を行うと、電話回線に比べてより速い通信が可能となります。（**98**ページ）

i.LINK（DV入力／TS）端子

D-VHSビデオデッキなどと接続します。

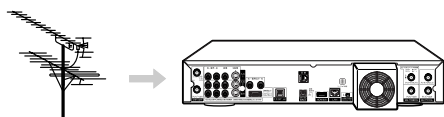
■D-VHSビデオデッキを接続
（2. 操作編 **112**ページ）

■DV端子付きデジタルビデオカメラを接続
（2. 操作編 **118**ページ）

アンテナやAV機器を接続する手順

- ご自分で接続するときの接続方法について説明しています。

本機の入出力端子とおもに接続する機器については→ **16** ページ

接続は下記の手順で行ってください。

step1 アンテナ線を接続する→ **19** ページ

■基本的な接続

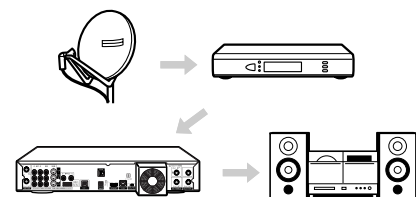
- 地上アナログ放送を見る・録画する ....**19** ページ
- 地上デジタル放送を見る・録画する ....**20** ページ
- BS・110 度 CS デジタル放送を見る・録画する ....**22** ページ

step2 テレビと接続する→ **26** ページ

■本機の映像・音声端子と接続機器 ....**24** ページ

- D 映像入力端子付きテレビと接続する ....**26** ページ
- コンポーネント映像（色差）入力端子付きテレビと接続する ....**27** ページ
- S 映像入力端子付きテレビと接続する ....**28** ページ
- 映像・音声入力端子付きテレビと接続する ....**28** ページ
- HDMI入力端子付きテレビと接続する....**29** ページ(DV-HDR3を除く)
- ディスプレイとチューナーが別々になったテレビと接続する....**30** ページ

基本的な接続は完了です。

AV 機器や BS/CS チューナーなどを接続するとき

ビデオデッキを接続する場合（本機にダビング）....**32** ページ
アナログ BS/CS チューナーを接続する場合 ....**34** ページ
CATV ボックスを接続する場合 ....**36** ページ
2ch オーディオ機器を接続する場合 ....**38** ページ
光デジタル音声端子付きオーディオ機器を接続する場合 ....**39** ページ

ご注意

- 接続作業を行うときは、必ず本機および接続する機器の電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。
- 本機とテレビを接続しているコードとアンテナ線を一緒に束ねないでください。テレビ放送を見るときに画面にノイズが出るなど、電波妨害の原因となることがあります。
- 機器間の相互干渉による映像の乱れや雑音などを避けるため、電源コードや他の接続コード類をアンテナ線からできるだけ離してご使用ください。
- 本機とテレビは直接接続してください。ビデオデッキを経由して本機の映像をテレビに映した場合、コピー防止機能の働きにより映像が乱れることがあります。

アンテナ線を接続する

基本的な接続（地上アナログ放送を見る・録画する）

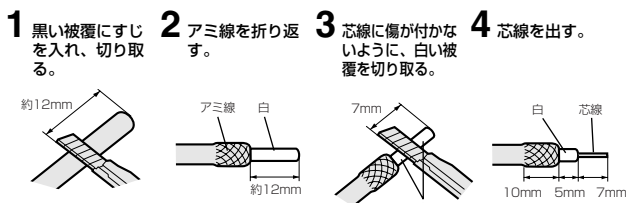
テレビとの接続

地上デジタル放送をご覧になるときは…**20**ページ

BS・110度CSデジタル放送をご覧になるときは…**22**ページ

同軸ケーブルの先端加工のしかた

アミ線や芯線の長さは、取り付ける機器の説明書で確認してください。

1 黒い被覆にすじを入れ、切り取る。　**2** アミ線を折り返す。　**3** 芯線に傷が付かないように、白い被覆を切り取る。　**4** 芯線を出す。

アンテナ線接続プラグの取り付け例

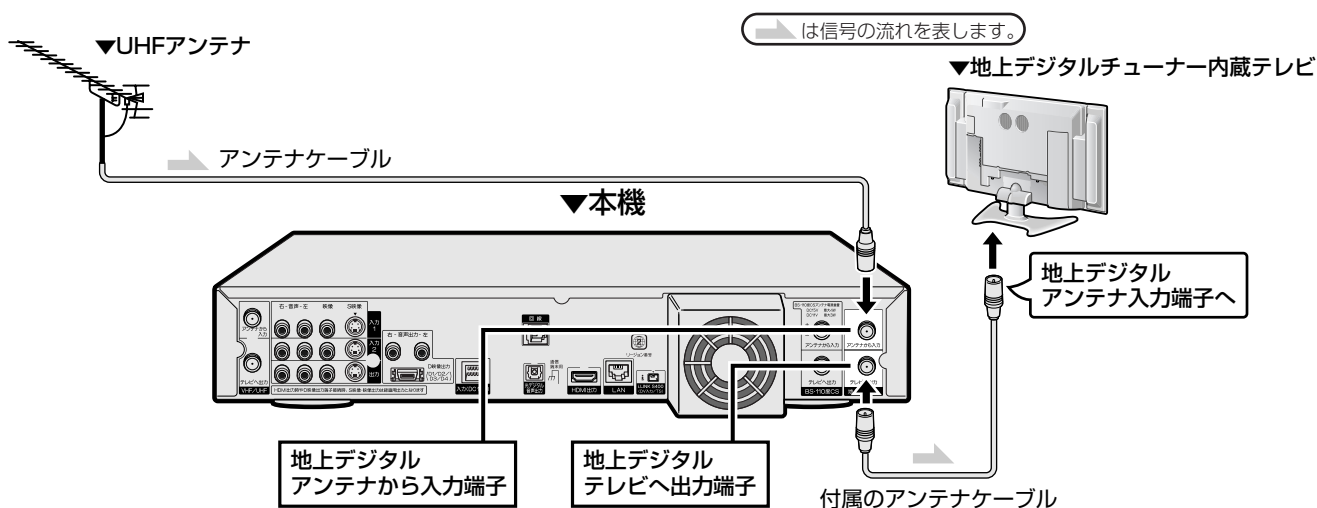
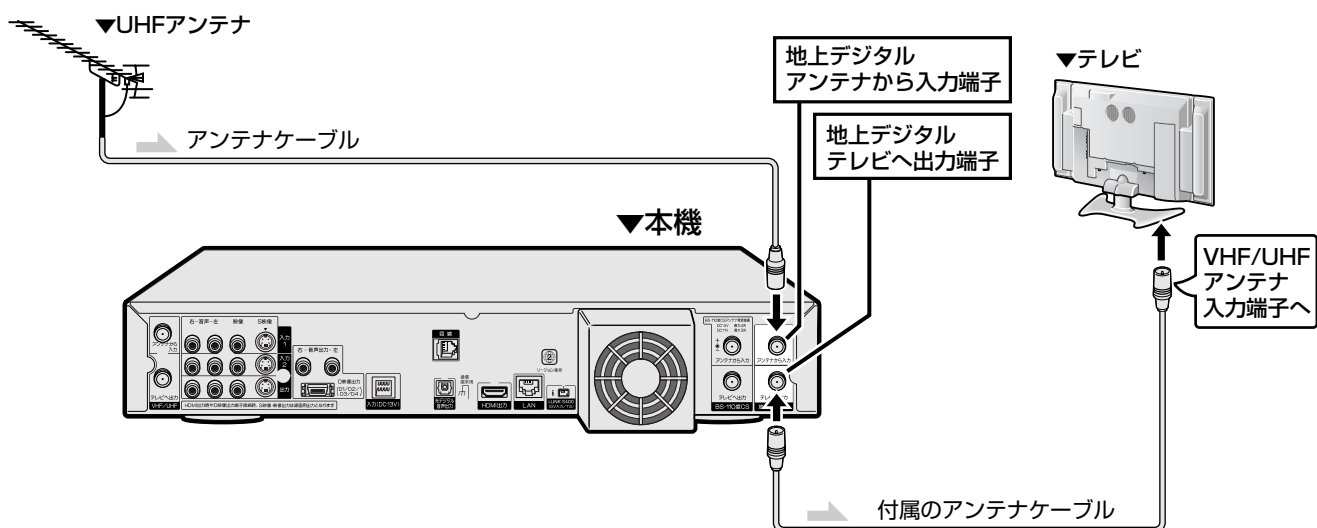
アンテナ接続プラグ部品番号 ： QPLGF0129GEZZ　　流通コード ： 003 524 0968

1 ツメを外側にひらき、カバーを外す。　**2** 線をガイド金具から取り外し、プラスチックにはさむ。　**3** 同軸ケーブルの先端をガイド金具に巻き付ける。　**4** カバーをもとどおりにはめ込む。

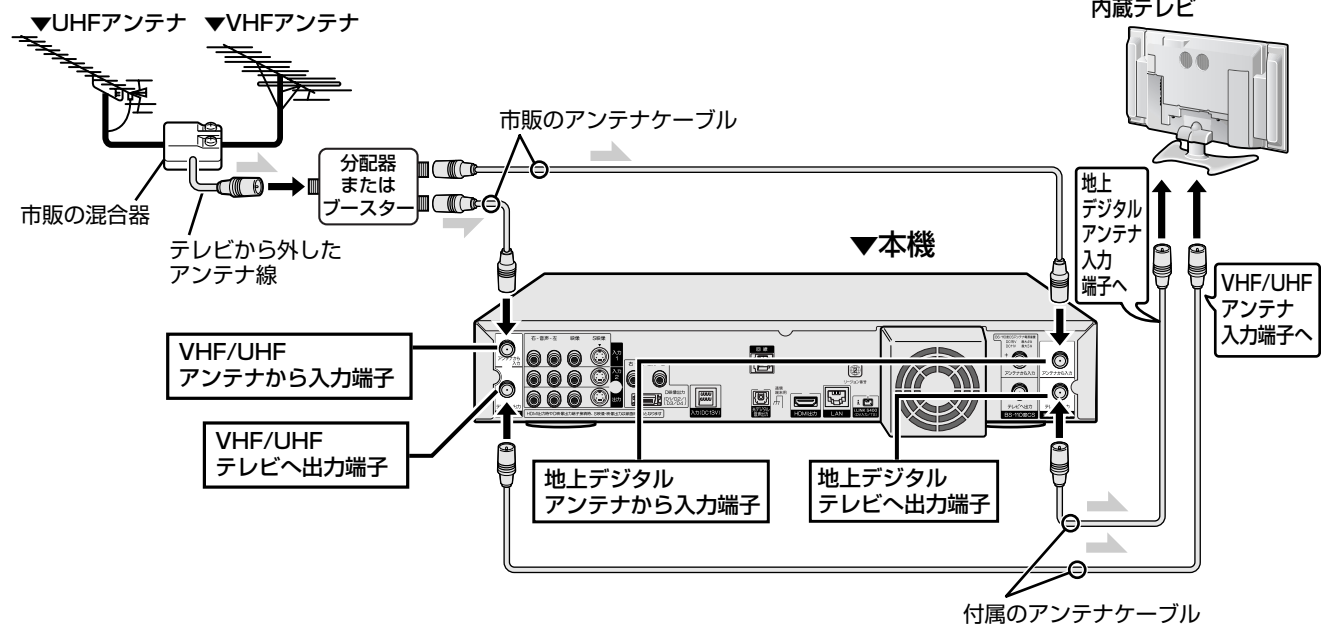
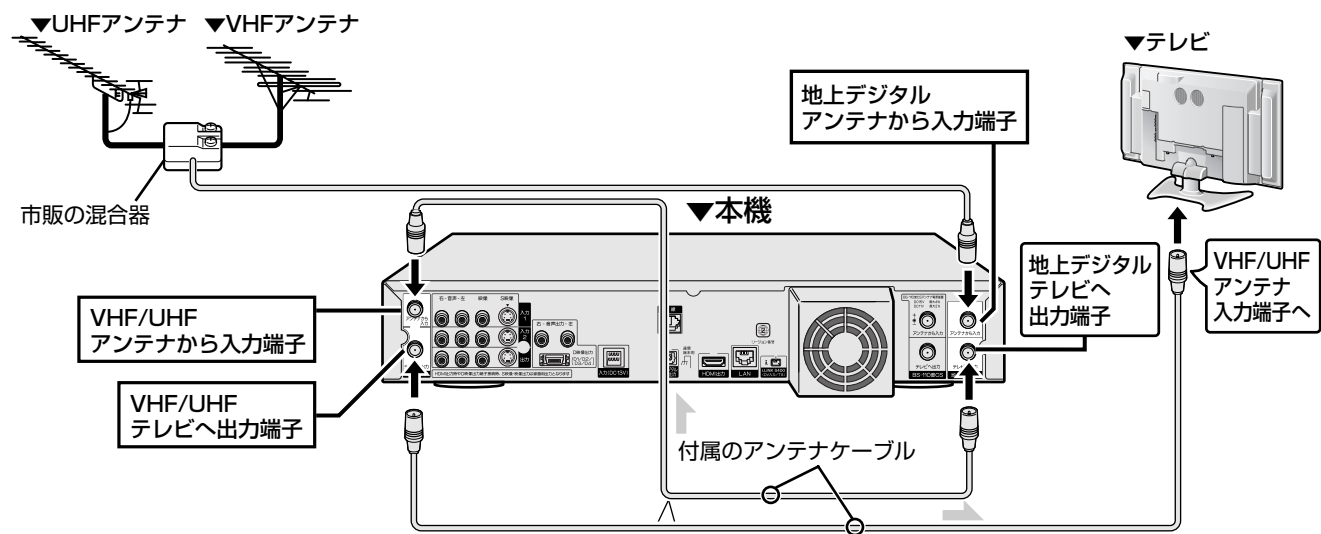
基本的な接続（地上デジタル放送を見る・録画する）

- 地上デジタル放送の受信には、UHFアンテナを使用します。VHFアンテナでは受信できません。すでにUHF放送を受信しているときは、現在お使いのアンテナで受信できます。（一部取り替えが必要な場合もあります。）
- BS・110度CSデジタル放送をご覧になるときは、**22**ページをご覧ください。

地上デジタル放送だけを見る・録画する

地上デジタルチューナー内蔵テレビの場合

地上デジタルチューナーがないテレビの場合

VHF/UHF放送と地上デジタル放送を見る・録画する

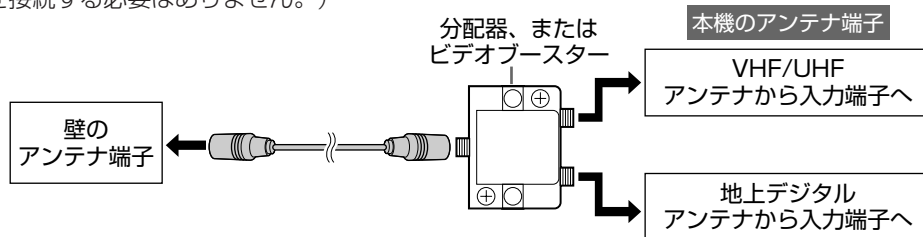
地上デジタルチューナー内蔵テレビの場合

地上デジタルチューナーがないテレビの場合

メモ 上記の接続で地上アナログ放送（VHF/UHF放送）を視聴していて映りが悪いときは、市販のアンテナ分配器またはビデオブースターを使ってアンテナを接続してください。（地上デジタルテレビへ出力端子にはアンテナ線を接続する必要はありません。）

分配器、またはビデオブースター

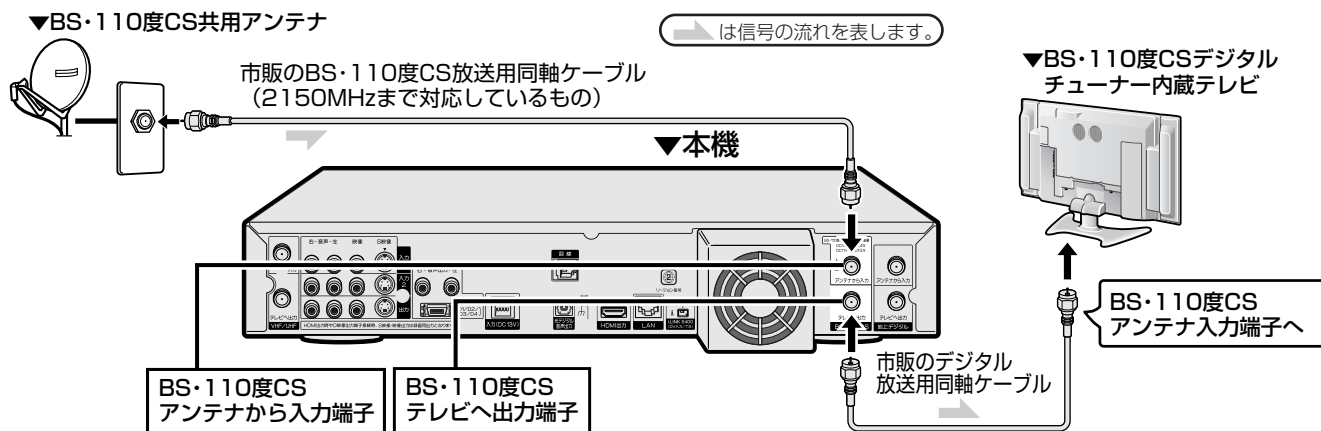
本機のアンテナ端子

VHF/UHFアンテナから入力端子へ

壁のアンテナ端子

地上デジタルアンテナから入力端子へ

step1 アンテナ線を接続する → step2 テレビと接続する → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

基本的な接続（BS･110度CSデジタル放送を見る・録画する）

- BS･110度CSデジタル放送を見るためには、BS･110度CS共用アンテナをお使いください。
- アンテナとの接続には、「BS･110度CS放送用同軸ケーブル（市販品）」をお使いください。「BS･110度CS放送用同軸ケーブル」は、110度CS帯域（2150MHz）まで対応しているもの(S-5C-FBなど）をお使いください。

F接栓の取り付けについて

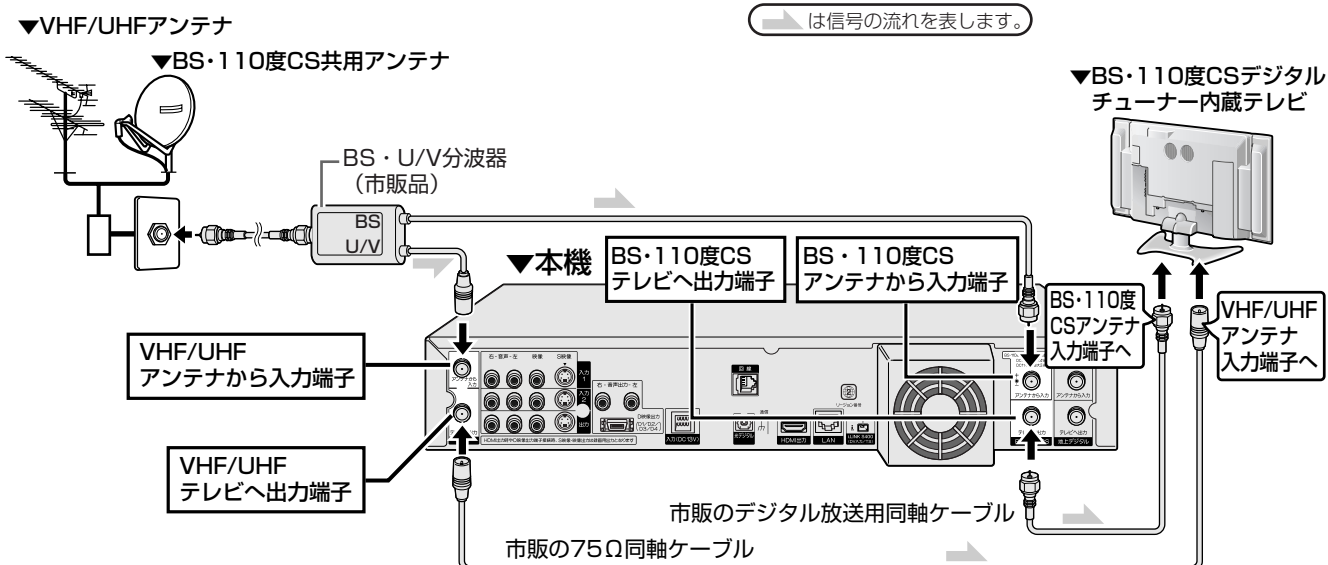
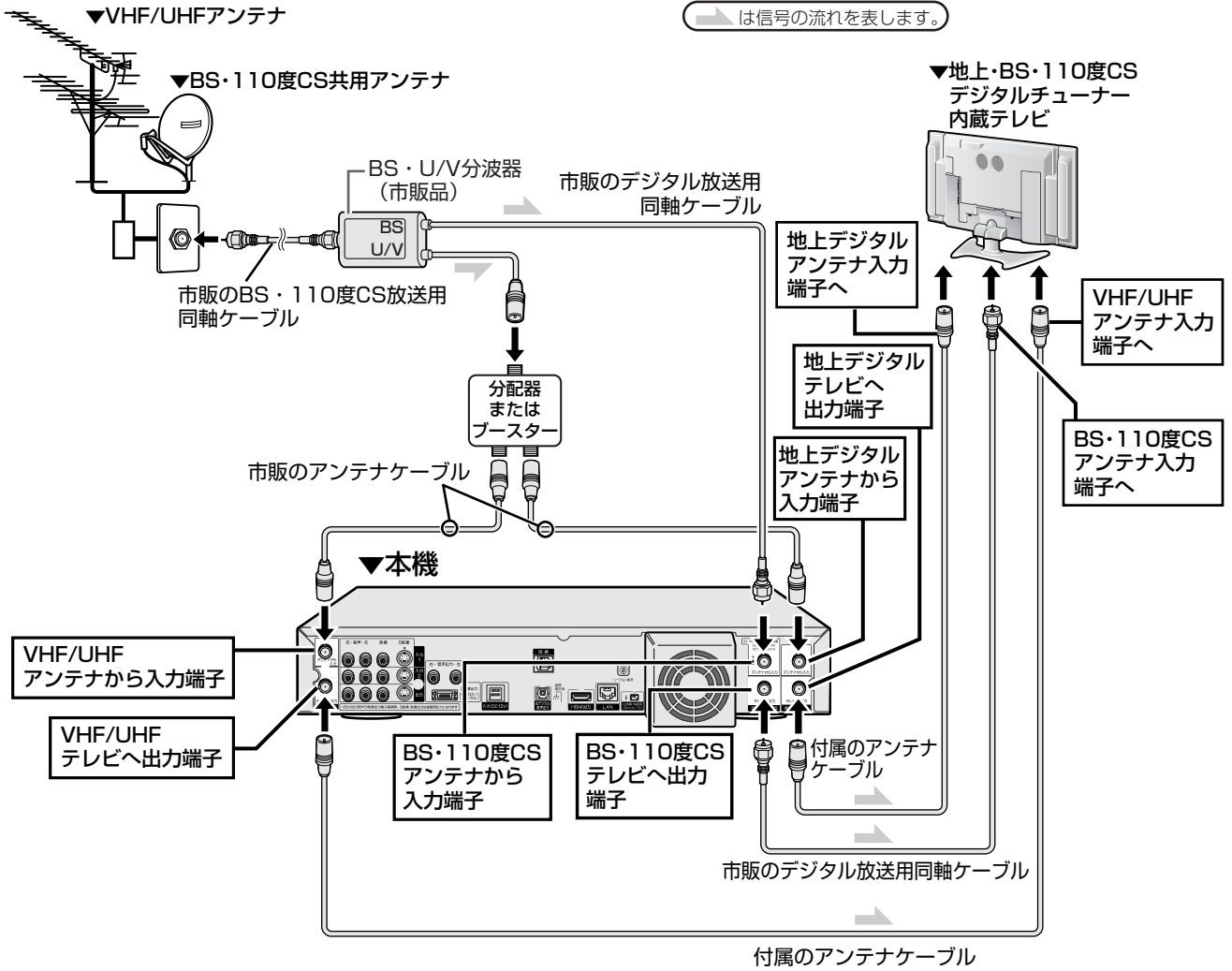
アンテナ線は、同軸ケーブルにF接栓を接続してご使用ください。

工具は使わない

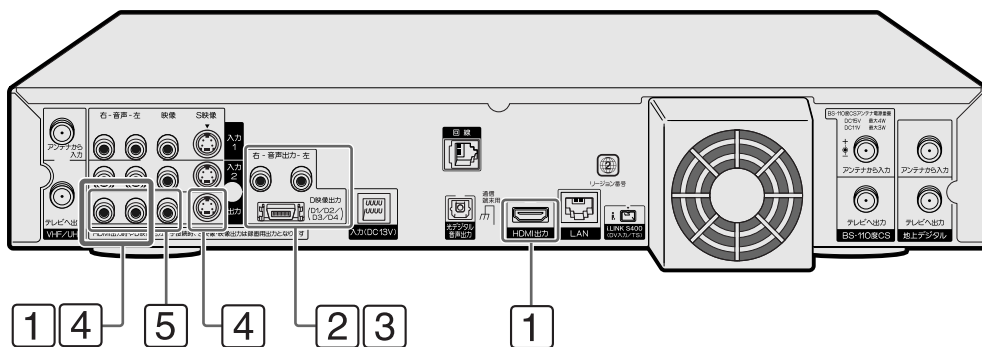
F接栓を取り付けるときは、工具で強く締めつけないでください。内部の結線が切れ、故障する場合があります。

BSアンテナの電源について

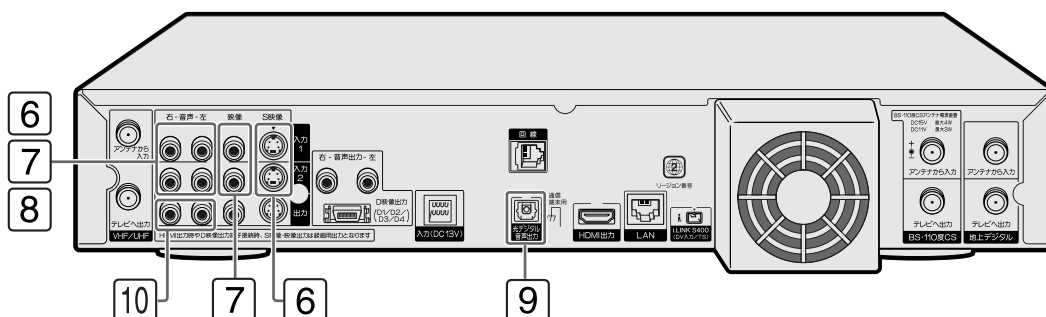
・本機のBS・110度CSアンテナから入力端子は、BS・110度CSアンテナに電源を供給するはたらきをもっています。
・BS・CSアンテナ電源設定（**72**ページ）が「入」になっているとき、本機からBS・110度CSアンテナに電源が供給されます。
・BS・110度CSアンテナを接続するときは、必ずBS・110度CSアンテナ電源を「切」にしてください。工場出荷時は「切」に設定されています。
・放送局との自動通信について……本機は電源「切」（待機状態）のとき、放送局との通信（契約情報など）のため、自動的に電源が入り動作することがあります。
　通信中（本体前面の通信中ランプ点灯中）は、電源を「切」にしないでください。通信が終了すると、自動的に電源「切」（待機状態）に戻ります。

壁のアンテナ端子がBS･VHF/UHF混合の場合

地上アナログ放送、地上デジタル放送とBS・110度CSデジタル放送を見る・録画する

映像・音声端子と接続機器

step1 アンテナ線を接続する → **step2 テレビと接続する** → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

■ テレビの接続端子の種類に合わせて、付属の映像・音声コードや市販のケーブル・コードを使い、本機とテレビを接続してください。テレビ側の接続は、テレビに付属の取扱説明書をご覧ください。
■ 付属のD映像ケーブルを使い、ハイビジョン対応（D3／D4）端子付きテレビと接続したときは、ハイビジョン映像をそのままハイビジョン画質でお楽しみいただけます。
■ 市販のHDMIケーブルを使い、HDMI端子付きテレビと接続したときは、ハイビジョン映像をそのままハイビジョン画質でお楽しみいただけます。（DV-HDR3を除く）

画質	接続する機器	接続に使うケーブル・コード	本機の接続端子
高	HDMI端子付きテレビ	HDMIケーブル（市販品）	1 HDMI出力端子（DV-HRD300 DV-HRD30）☞29ページ ※ 音声コードは接続しません。（DV-HRD3は、HDMI端子を装備しておりません）
	D映像端子付きテレビ	D映像ケーブル（付属品） 音声コード※（付属品または市販品）	2 D1/D2/D3/D4映像出力端子と音声出力端子 ☞26ページ
	コンポーネント映像（色差）端子付きテレビ	D－コンポーネント変換ケーブル（市販品） 音声コード※（付属品または市販品）	3 D1/D2/D3/D4映像出力端子と音声出力端子 ☞27ページ
	S映像端子付きテレビ	S映像コード（市販品） 音声コード※（付属品または市販品）	4 S1/S2映像出力端子と音声出力端子 ☞28ページ
標準	映像端子付きテレビ	映像・音声コード（付属品）	5 映像・音声出力端子 ☞28ページ

※付属の映像・音声コードを使用するときは、音声側（白－左）（赤－右）のみ接続してください。

■ 外部機器を接続するときも、外部機器の端子の種類に合わせて、付属の映像・音声コードや市販のケーブル・コードを使い、本機と外部機器を接続してください。外部機器側の接続は、外部機器に付属の取扱説明書をご覧ください。

接続する機器			接続に使うケーブル・コード	本機の接続端子
BS/CS チューナー ビデオデッキ など	映像	S 映像出力端子	S 映像コード（市販品）	6 S 映像入力 1 または 2 端子 ☞33,35 ページ ※ 音声コードも接続します。
	映像	映像出力端子	映像コード（市販品） （黄）（黄）	7 映像入力 1 または 2 端子 ☞33,35 ページ ※ 音声コードも接続します。
	音声	音声出力端子	音声コード（市販品） 右（赤）左（白） 右（赤）左（白）	8 音声入力 1 または 2 端子 ☞33,35 ページ
オーディオ機器	音声	光デジタル音声入力端子	光デジタル音声ケーブル（市販品） ※ 接続する機器の形状に合ったもの ※本機（角形）	9 光デジタル音声出力端子 ☞39 ページ
	音声	アナログ音声入力端子	音声コード（市販品） 右（赤）左（白） 右（赤）左（白）	10 音声出力端子 ☞38 ページ

お知らせ

HDMI端子接続について
- HDMI出力端子を使って接続したときは、出力解像度は「オート」に設定されます。
  「オート」設定状態で正常な映像が得られないときは、下記の表を参考に出力解像度を変更してください。
- DVIデジタル入力端子付きの機器とDVI/HDMI変換ケーブル（市販品）を使用して接続したときは、正常な映像にならない、または映らない場合があります。（HDMI端子は、HDMI機器との接続を目的に設計されています。また、DVI/HDMI変換ケーブルを使いDVI機器と接続したときは、DVI機器に音声が入力されません。）
- HDMI設定を「オート」以外に設定するとき、接続先で対応していない解像度は選択できません。（ケーブルが接続されていない、または電源が入っていないときも選択できません。）

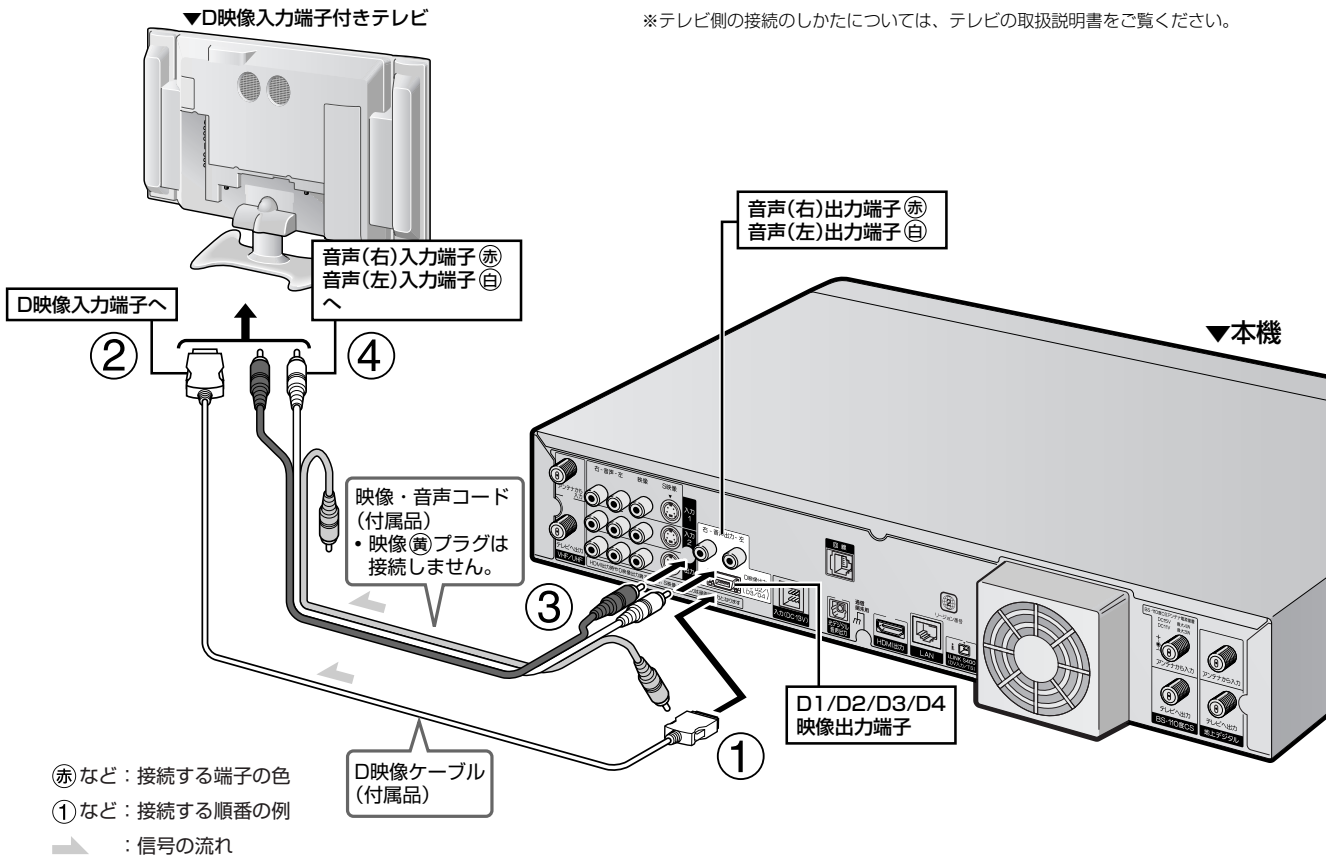
D映像端子またはHDMI端子にケーブルを接続したとき
- **出力端子は録画用の端子となります。**そのためデジタル放送を受信しているときはS映像端子や映像端子からはスタートメニューや画面表示などの記号が出力されません。
- スタートメニューや画面表示を使用するときは、D映像端子またはHDMI端子を接続した入力にテレビを切り換えてお楽しみください。

テレビと接続する

step1 アンテナ線を接続する → step2 テレビと接続する → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

D映像入力端子付きテレビと接続するとき

・テレビと接続するときは、本体後面の「出力端子」を使い接続します。

- テレビにＤ映像入力端子（D1、D2、D3、D4）が付いている場合は、付属のＤ映像ケーブルを使って接続することをおすすめします。Ｓ映像よりさらにきれいな映像がお楽しみいただけます。
- 付属のＤ映像ケーブルを使い、ハイビジョン対応（D3／D4）端子付きテレビと接続したときは、ハイビジョン映像をそのままハイビジョン画質でお楽しみいただけます。

お知らせ

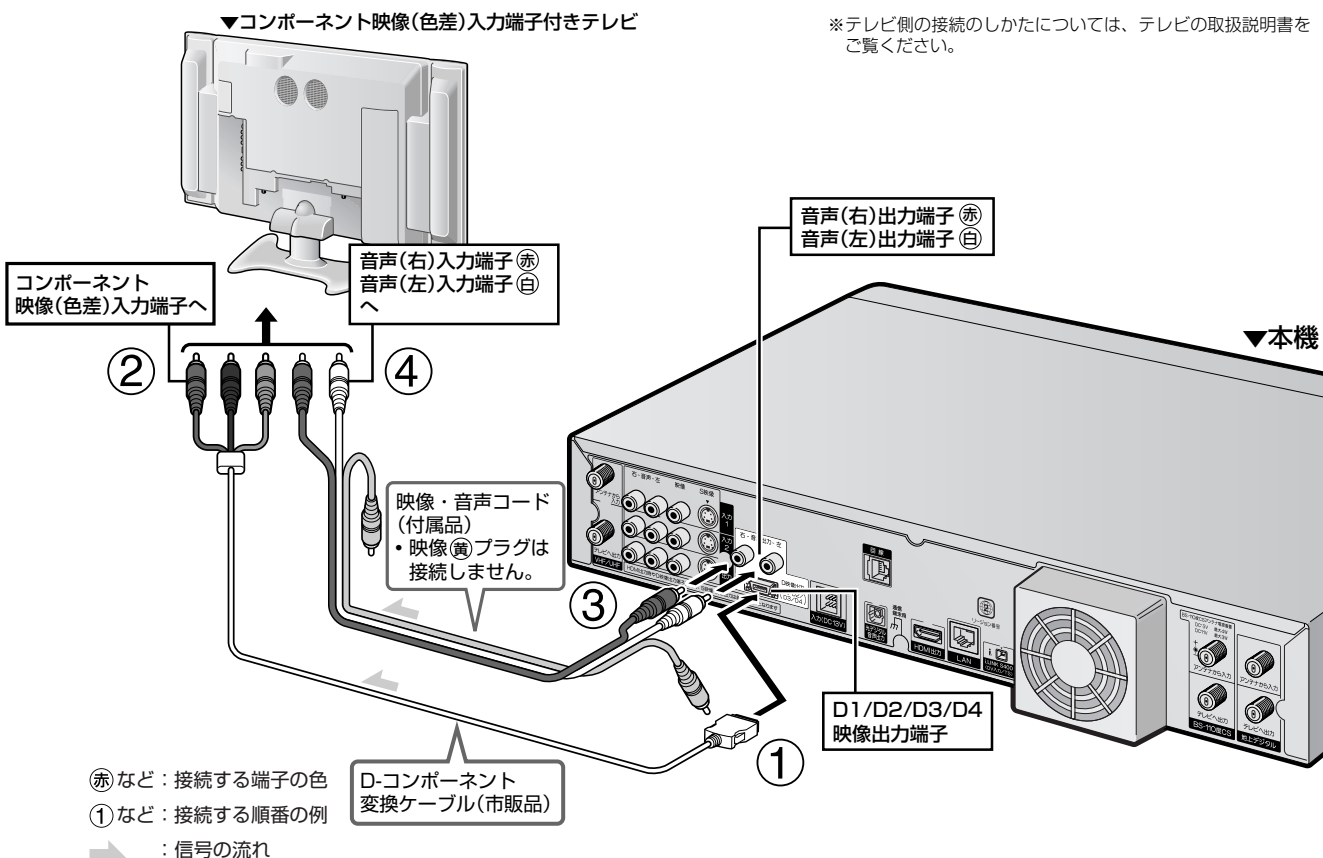
- 本機の電源が「入」の状態で、本機にD映像ケーブルを差し込まないでください。必ず、本機の電源が「切」の状態で、D映像ケーブルを差し込んでください。

付属のD映像ケーブルを使ってD映像入力端子付きテレビと接続したときは、かんたん接続設定（**46**～**49**ページ）で次の設定を行ってください。

設定する項目		選ぶ内容	設定し直すとき
映像端子設定（接続したテレビの端子名）	D1、D2端子	「通常のテレビ」－「D1 映像入力端子」※「D2 映像入力端子」（接続したテレビの端子名を選びます。）	「スタートメニュー」－「各種設定」－「かんたん接続」で設定し直します。（**46**～**49**ページ） •「各種設定」の「設置調整」－「映像・音声設定」でも設定し直すことができます。（2. 操作編 **166**ページ）
	D3、D4端子	「通常のテレビ／ハイビジョン対応テレビ」－※「D3 映像入力端子」※「D4 映像入力端子」（接続したテレビの端子名を選びます。）	
テレビのタイプ設定	16:9ワイドテレビ	ワイド（16：9）	
	4:3サイズのテレビ	通常（4：3）	

※ D2～D4に設定していて「プログレッシブ出力設定」を「する」に設定しているとき、DVDの再生映像が乱れて見える場合は、「スタートメニュー」－「各種設定」－「視聴・再生設定」－「プログレッシブ出力設定」を「しない」に設定し直してください。

コンポーネント映像(色差)入力端子付きテレビと接続するとき

テレビにコンポーネント映像(色差)入力端子が付いている場合は、この端子に接続するとS映像よりさらにきれいな映像がお楽しみいただけます。

お知らせ

- コンポーネント映像(色差)入力端子に接続したときは、テレビのオートワイド機能は働きません。
- テレビによってはコンポーネント映像(色差)入力端子の切換え（メニュー設定やスイッチの切換えなど）が必要なものがあります。お使いのテレビの取扱説明書にしたがって操作してください。
- テレビにD映像入力端子とコンポーネント映像(色差)入力端子の両方が付いているときは、D映像入力端子と接続することをおすすめします。
- 本機の電源が「入」の状態で、本機にD-コンポーネント変換ケーブルを差し込まないでください。必ず、本機の電源が「切」の状態で、D-コンポーネント変換ケーブルを差し込んでください。

市販のD-コンポーネントビデオコード（RCAピンタイプ）を使ってコンポーネント映像（色差）入力端子付きテレビと接続したときは、かんたん接続設定（**46**～**49**ページ）で次の設定を行ってください。

設定する項目		選ぶ内容	設定し直すとき
映像端子設定（接続したテレビの端子名）	DVD入力用 Y, CB, CR 端子	「通常のテレビ」－「コンポーネント映像入力端子 Y, CB, CR」	「スタートメニュー」－「各種設定」－「かんたん接続」で設定し直します。（**46**～**49**ページ）
	ハイビジョン対応 Y, PB, PR 端子	「ハイビジョン対応テレビ」－「コンポーネント映像入力端子 Y, PB, PR」	
	Y, PB/CB, PR/CR端子	「コンポーネント映像入力端子 Y, PB/CB, PR/CR」	
テレビのタイプ設定	16:9ワイドテレビ	ワイド（16：9）	
	4:3サイズのテレビ	通常（4：3）	

※ 「プログレッシブ出力設定」を「する」に設定したとき、DVDの再生映像が乱れて見える場合があります。映像が乱れて見える場合は、「スタートメニュー」－「各種設定」－「視聴·再生設定」－「プログレッシブ出力設定」を「しない」に設定し直してください。

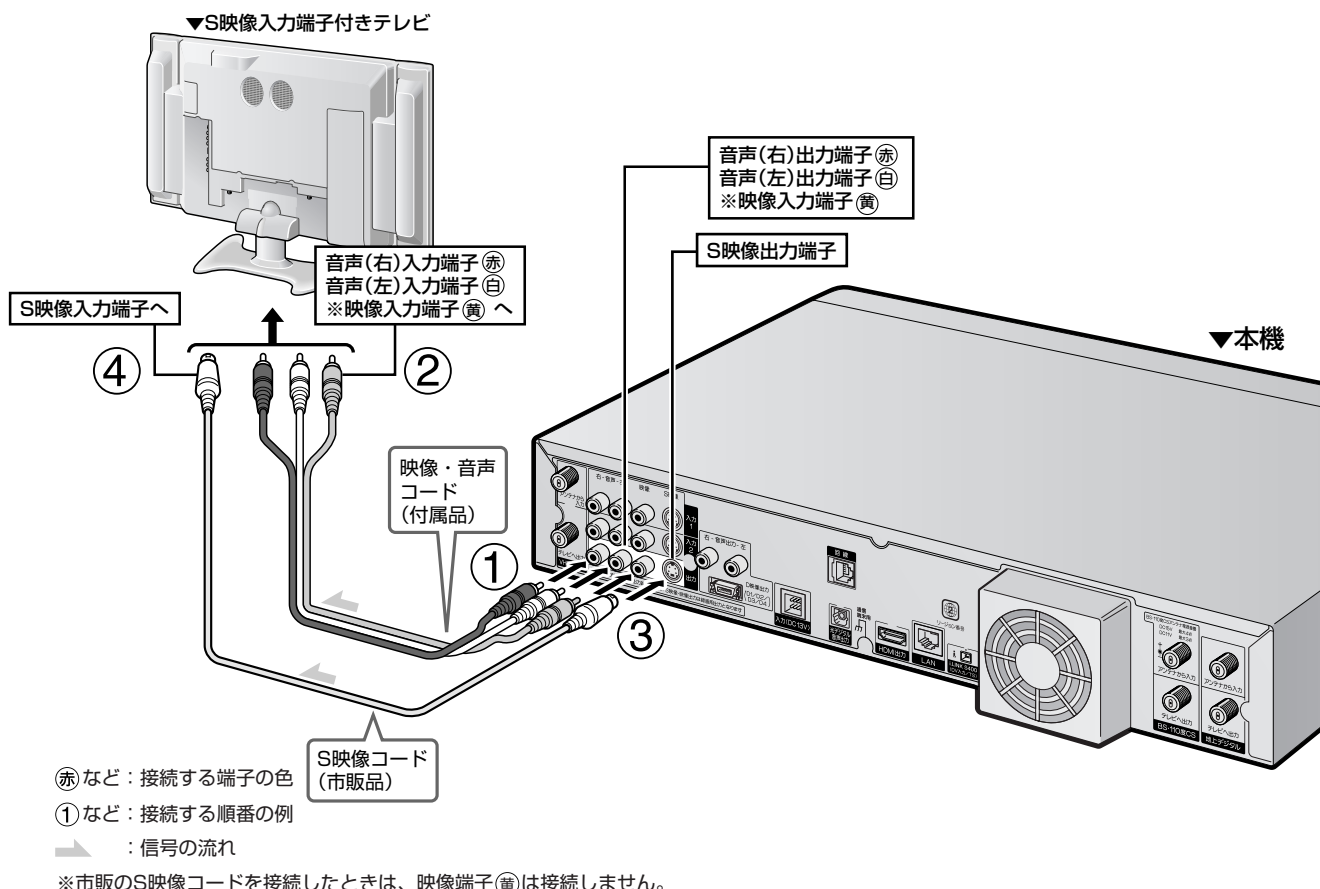
S映像コード(市販品)で接続するとき／映像・音声コード(付属品)で接続するとき

- S映像入力端子付きテレビと接続するときは、市販のS映像コードを使って接続することをおすすめします。映像端子を使った接続よりさらにきれいな映像がお楽しみいただけます。
- S映像コードと接続したときは、映像端子（黄色）は使いません。

赤 など：接続する端子の色

① など：接続する順番の例

：信号の流れ

※市販のS映像コードを接続したときは、映像端子 黄 は接続しません。

重 要

- 本機とテレビを接続しているコードをアンテナ線と一緒に束ねないでください。テレビ放送を見るときに、画面にノイズが出るなど、電波妨害の原因となることがあります。
- 接続するときは、本機および接続する機器の電源を切った状態で行ってください。

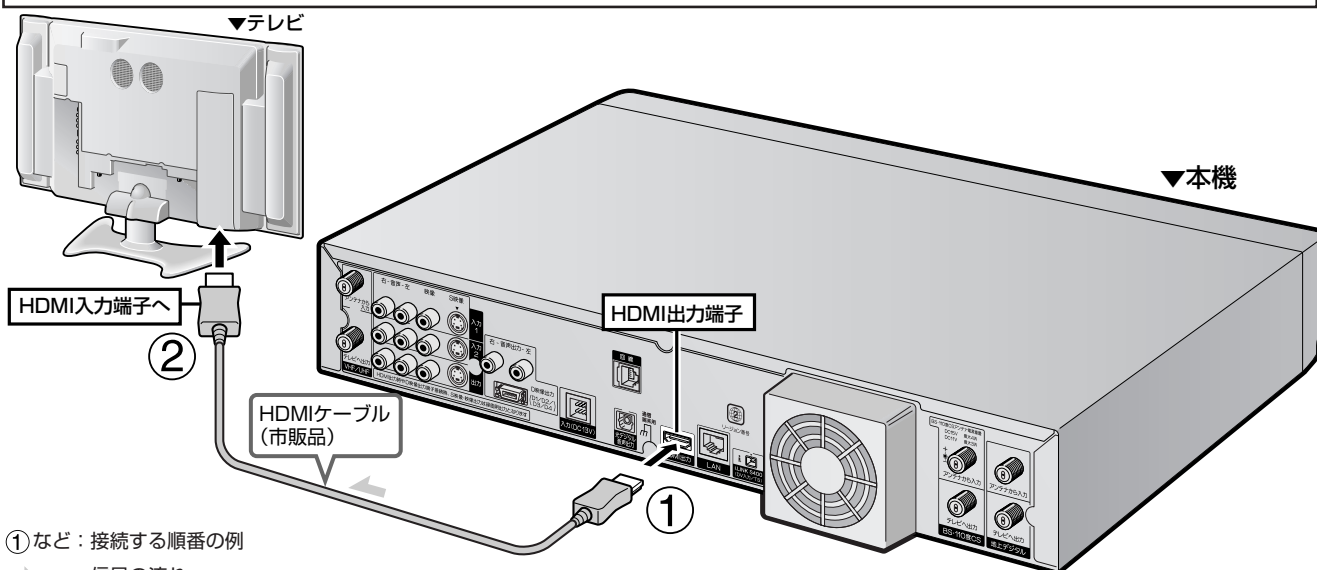
お知らせ

- 本機とテレビは、直接接続してください。ビデオデッキを通してテレビで本機の映像を見ると、コピー防止機能の働きにより、画像が乱れることがあります。
- デジタル放送を受信しているとき、DV-HRD300/DV-HRD30のHDMI端子（**29**ページ）やD映像端子（**26**ページ）を接続していると、S映像端子･映像出力端子からはメニュー画面･チャンネル表示などの画面表示や、データ放送の表示は出力されません。（テレビ映像と再生映像のみ通常画質（525i）で出力されます。ただし、録画リスト･編集･DVD再生･地上アナログ放送受信時は、画面に表示している映像が、そのまま出力されます。）

付属の映像・音声コードを使用してテレビと接続したときや市販のS映像コードを接続したときは、かんたん接続設定（**48～49**ページ）で次の設定を行ってください。

設定する項目		選ぶ内容	設定し直すとき
映像端子名		「通常のテレビ」－「映像入力端子」 または 「通常のテレビ」－「S映像入力端子」	「スタートメニュー」－「各種設定」－「かんたん接続」で設定し直します。（**48～49**ページ）
テレビのタイプ設定	16:9ワイドテレビ	ワイド（16：9）	
	4:3サイズのテレビ	通常（4：3）	

HDMI端子付きのテレビと接続するとき(DV-HRD300/DV-HRD30)

- テレビにHDMI入力端子が付いている場合は、市販のHDMIケーブルを使って接続することをおすすめします。映像と音声のデジタル信号を１本のケーブルで接続できます。D映像端子と音声端子、またはS映像端子と音声端子を使った接続よりも、さらに高品位な映像と音声をお楽しみいただけます。
- 市販のHDMIケーブルを使い、HDMI端子付きテレビと接続したときは、ハイビジョン映像をそのままハイビジョン画質でお楽しみいただけます。

①など：接続する順番の例

：信号の流れ

- DV-HRD300/DV-HRD30に装備しているHDMI端子は、映像と音声のデジタル信号を1本のケーブルでつなぐことができる新しい規格のデジタル専用端子です。HDMIケーブル（市販品）を使うと、他の映像ケーブル・音声ケーブルを接続する必要はありません。
- HDMI出力端子を接続したときは、映像出力する端子をリモコンで切り換えてください。
  （D映像端子とHDMI端子の両方からは映像は出力されません。）

D映像／HDMI出力信号を切り換える

① **本機の電源を入れる**

② **リモコンのふたを開ける**

③ **リモコンの D映像／HDMI切換 を5秒以上押して、出力信号を切り換える**

押すたびに、次のように切り換わります。

「D映像出力」←→「HDMI出力」

本体前面の液晶表示には、次のように表示されます。

D映像出力のとき　D

HDMI出力のとき　HDM

お知らせ

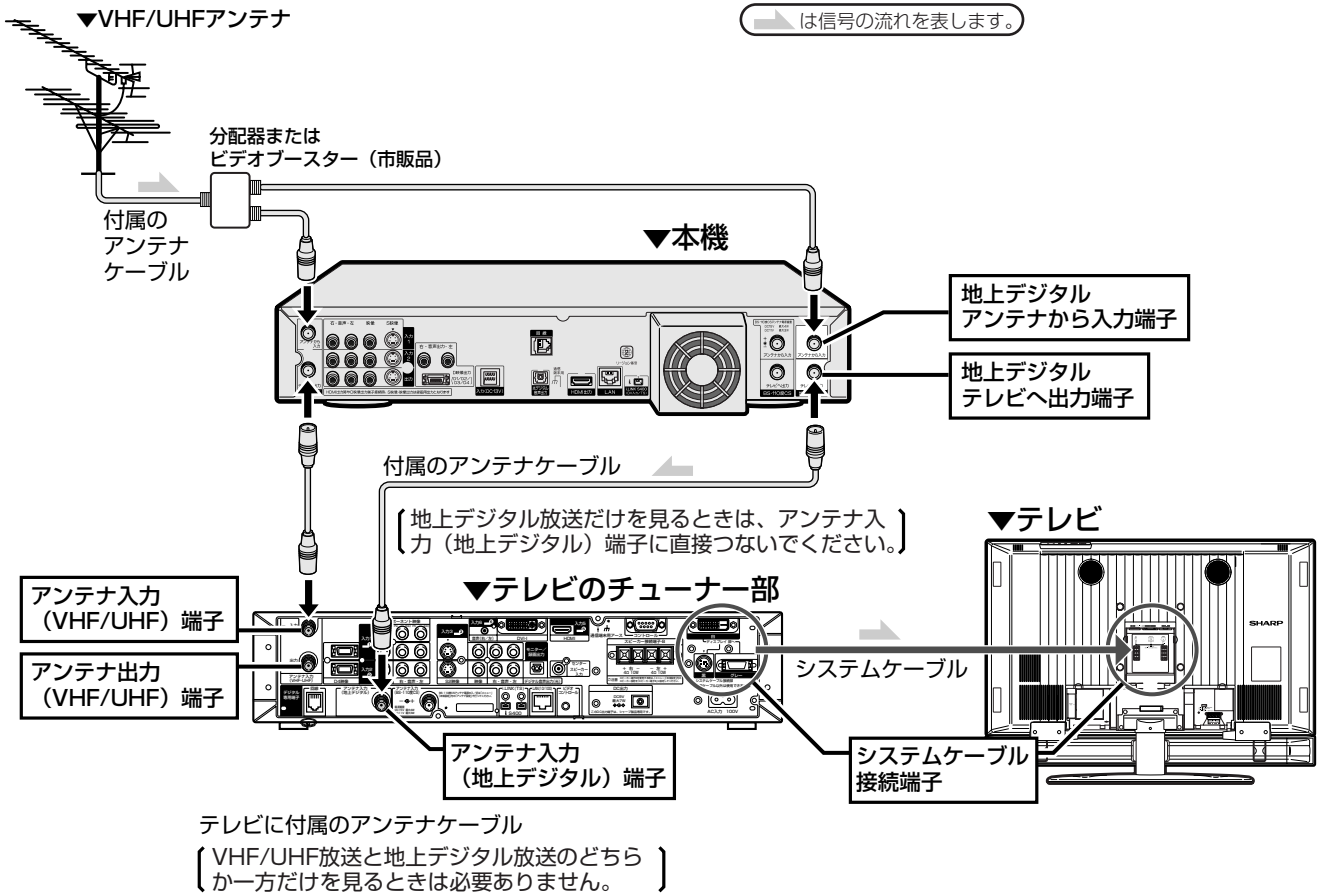
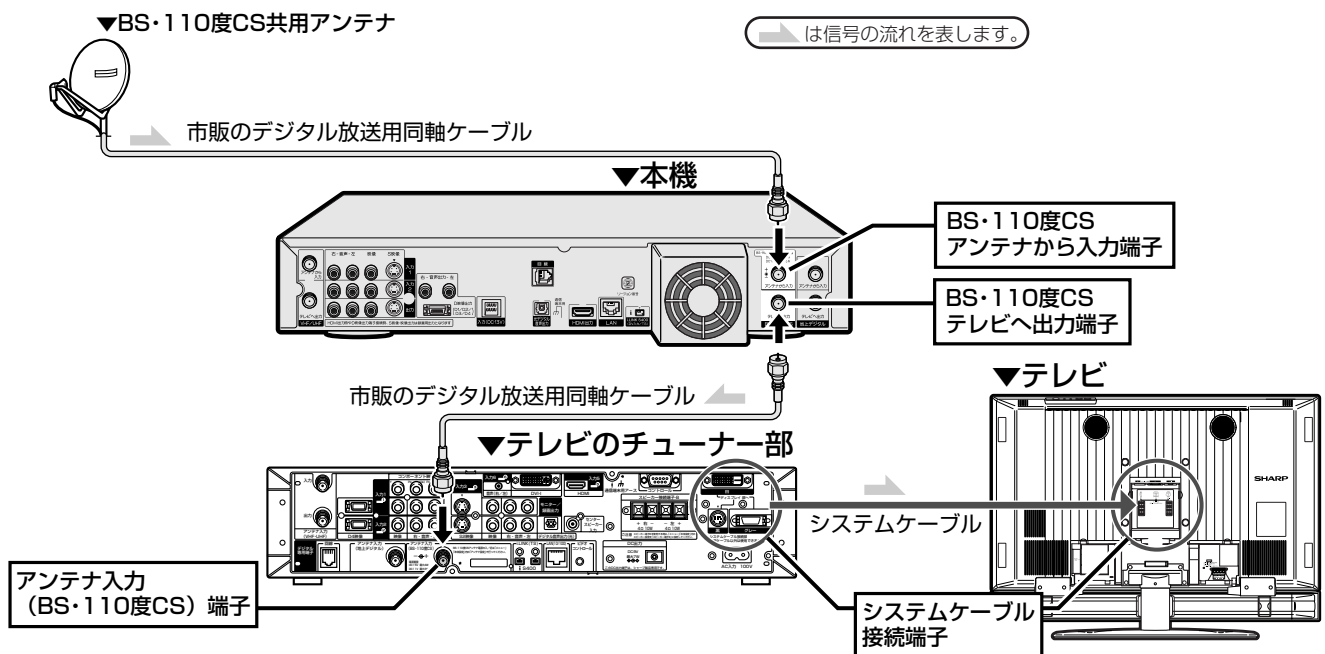
- HDMI出力端子を使って接続したときは、出力解像度は「オート」に設定されます。
  「オート」設定状態で正常な映像が得られないときは、下記の表を参考に出力解像度を変更してください。
- DVIデジタル入力端子付きの機器とDVI/HDMI変換ケーブル（市販品）を使用して接続したときは、正常な映像にならない、または映らない場合があります。（HDMI端子は、HDMI機器との接続を目的に設計されています。また、DVI/HDMI変換ケーブルを使いDVI機器と接続したときは、DVI機器に音声が入力されません。）
- HDMI設定を「オート」以外に設定するとき、接続先で対応していない解像度は選択できません。（ケーブルが接続されていない、または電源が入っていないときも選択できません。）
- HDMIケーブル（市販品）をご使用の際は、HDMI規格に適合したケーブルをご使用ください。
- DTS音声を楽しめるのは、DTSデコーダーに対応した機器です。DTSデコーダーに対応した機器でDTS音声を楽しむときは、「デジタル音声出力設定」を「ドルビーデジタル」に設定したうえで、ディスクの音声をDTS音声に切り換えてお楽しみください。DTSに対応していない機器で楽しむときは、ディスクの音声を「PCM」または「ドルビーデジタル」に切り換えてお楽しみください。

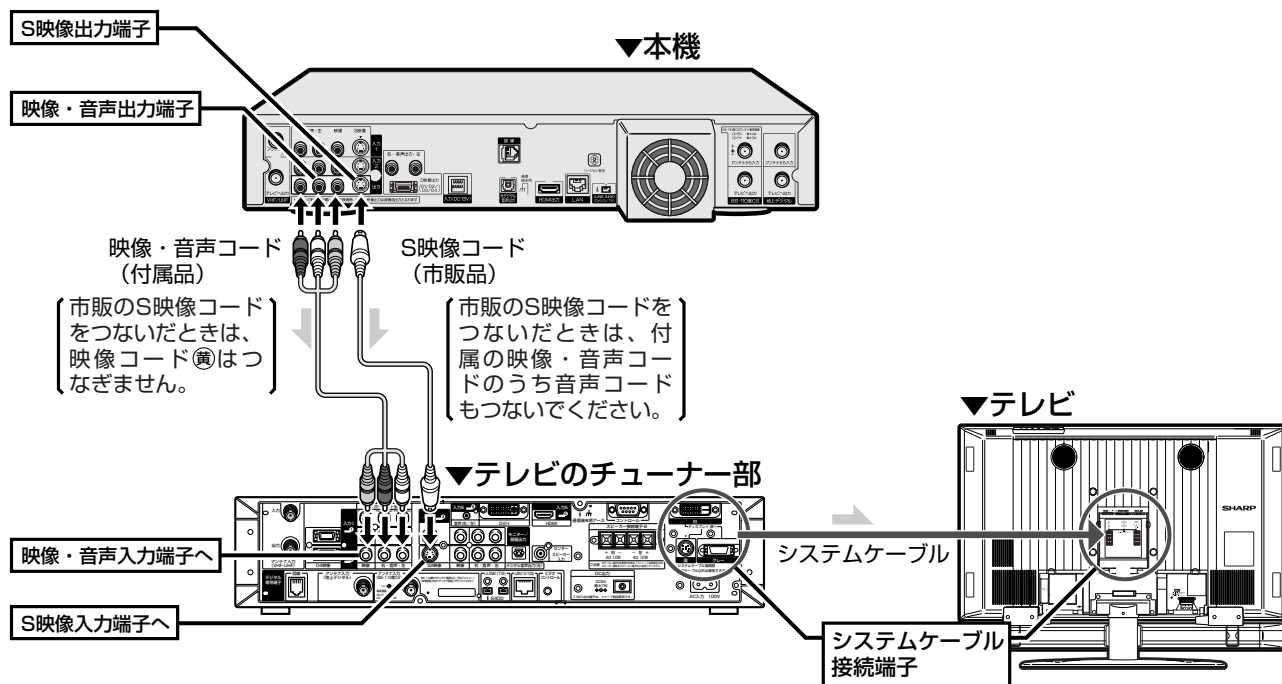
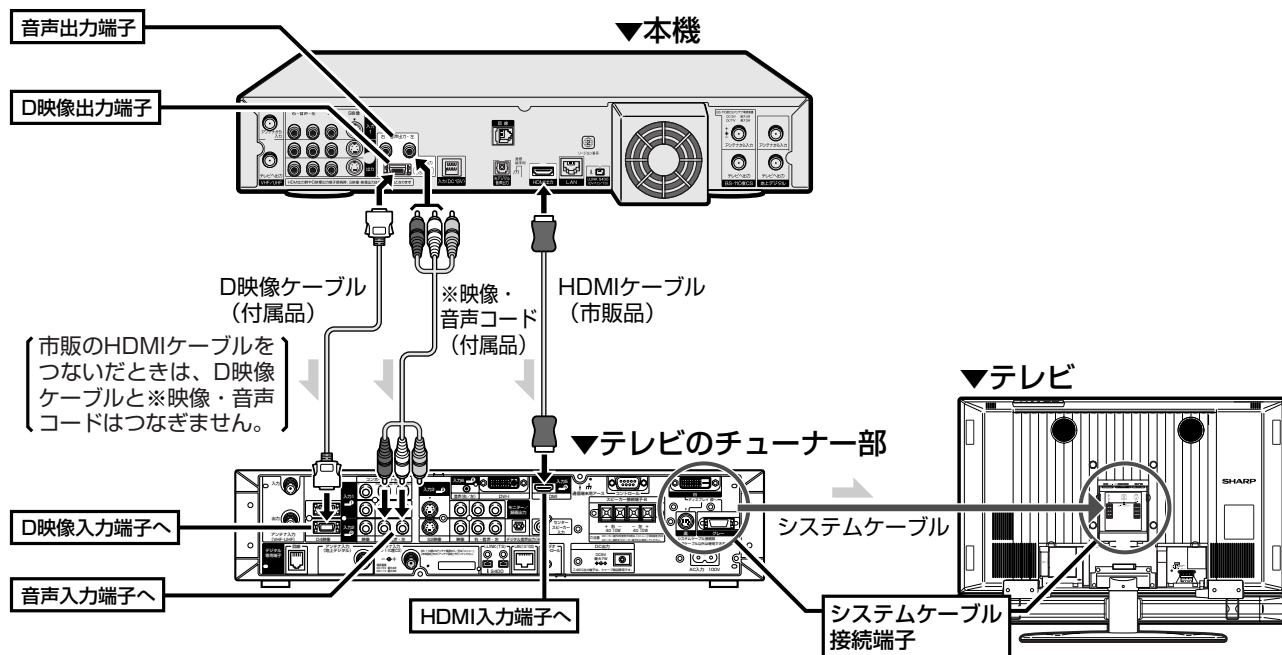
解像度の設定とデジタル音声出力の設定は、スタートメニューの「各種設定」（2. 操作編 **166,167** ページ）で行います。

設定する項目	選ぶ内容
「スタートメニュー」－「各種設定」－「設置調整」－「映像・音声設定」－「HDMI 映像出力設定」	「オート」「1125i 固定」「750p 固定」「525p 固定」 ● 通常は「オート」に設定します。
「スタートメニュー」－「各種設定」－「設置調整」－「映像・音声設定」－「デジタル音声出力設定」	デジタル放送を視聴するときの音声信号形式 「PCM」「AAC」 DVD を再生するときなどの音声信号形式 「PCM」「ドルビーデジタル」

ディスプレイとチューナーが別々になったテレビと接続するとき

■まず、アンテナ線を接続します。

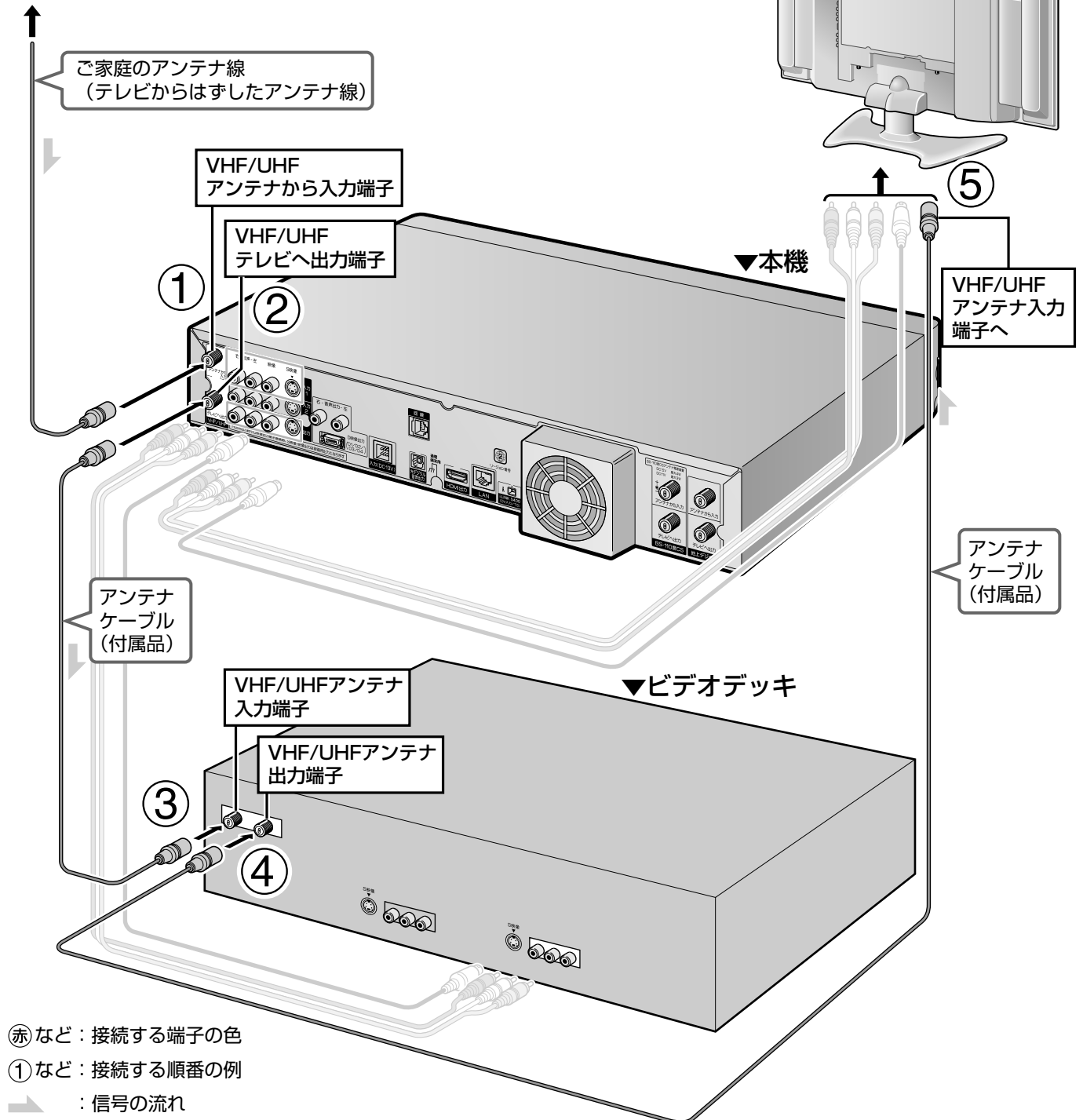
VHF/UHF放送と地上デジタル放送を見る・録画するとき

BS・110度CSデジタル放送を見る・録画するとき

■ 次に、映像・音声コードを接続します。

S映像コード（市販品）／映像・音声コード（付属品）で接続するとき

D映像ケーブル（付属品）／HDMIケーブル（市販品）で接続するとき

ビデオデッキとの接続（ビデオテープの内容を録画する）

step1 アンテナ線を接続する → step2 テレビと接続する → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

本機にビデオデッキを接続すると、ビデオテープの内容をダビングし、ハードディスク（HDD）やDVDに保存することができます。ビデオの映像をテレビに出力するときは、本機の電源を入れ、ビデオデッキを接続した外部入力に切り換えてください。

■ まず、アンテナ線を接続します。

アンテナ／壁のアンテナ端子へ
アンテナ線の接続のしかたは、**19**ページをご覧ください。

㊚など：接続する端子の色

①など：接続する順番の例

：信号の流れ

■ 次に、映像・音声コードを接続します。

- ビデオデッキにS映像出力端子が付いている場合は、市販のS映像コードで接続することをおすすめします。
- S映像コード（市販品）で接続したときは、映像端子（黄色）は接続しません。

㊍赤 など：接続する端子の色

① など：接続する順番の例

：信号の流れ

※ 市販のS映像コードを接続したときは、映像端子㊍黄は接続しません。

お知らせ

- 本機とテレビは直接接続してください。ビデオデッキを通してディスクの再生映像を見ると、コピー防止機能の働きにより、画像が乱れることがあります。
- 市販のビデオソフトなど、コピー防止機能の入ったテープを再生すると、コピー防止機能の働きにより本機では録画（正常な録画）ができません。
- アンテナ線を中継して接続すると、テレビの映りが悪くなる場合があります。そのようなときは、市販のブースターをご使用ください。
- 本機を使用（再生や録画）しているときはビデオの映像が見られません。ビデオを見るときは、本機を使用していない状態でビデオを接続した外部入力に切り換えてご覧ください。

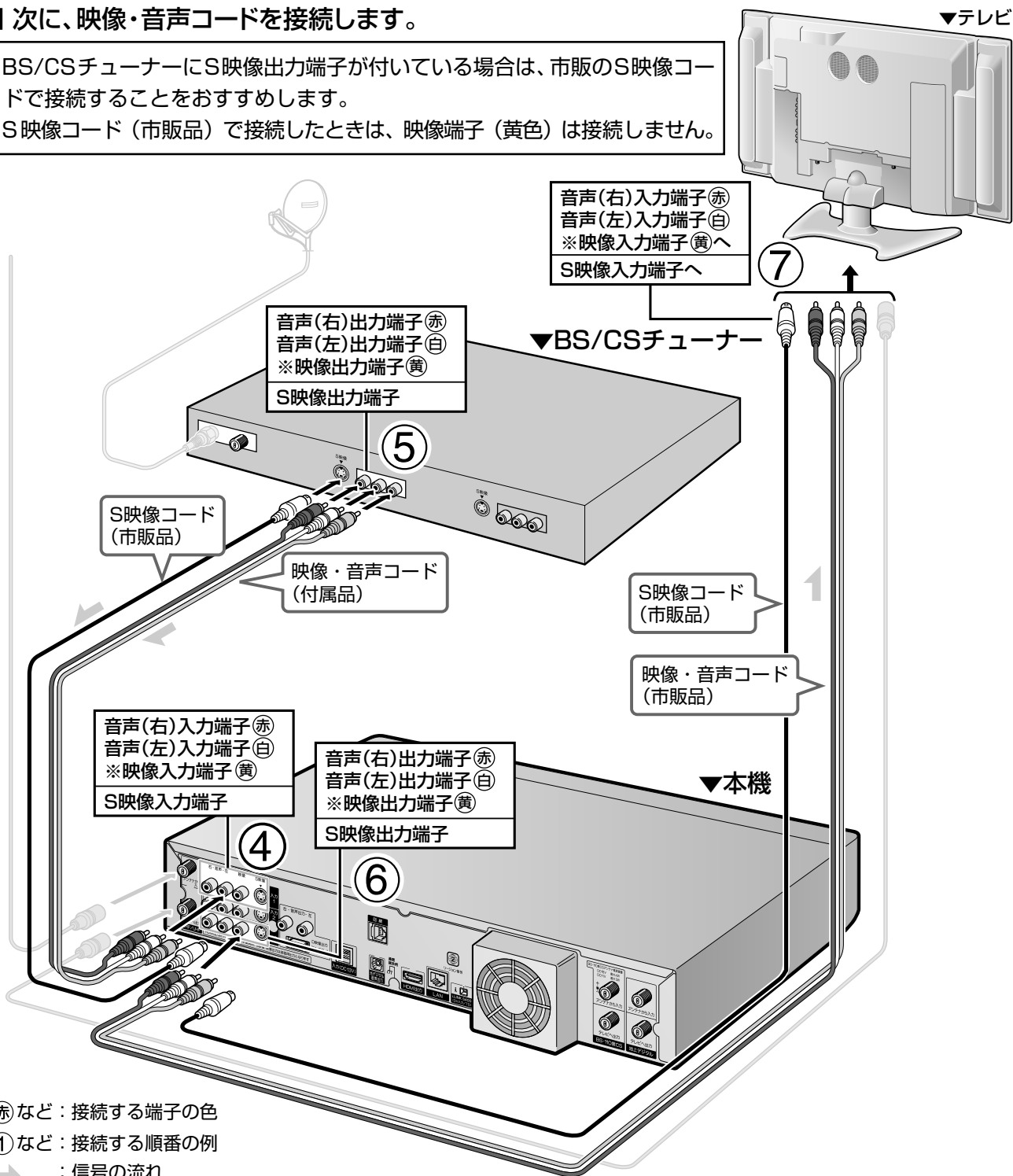
アナログBS/CSチューナーとの接続

step1 アンテナ線を接続する → step2 テレビと接続する → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

■ まず、アンテナ線を接続します

㊀など：接続する端子の色
①など：接続する順番の例
：信号の流れ

■ 次に、映像・音声コードを接続します。

- BS/CSチューナーにS映像出力端子が付いている場合は、市販のS映像コードで接続することをおすすめします。
- S映像コード（市販品）で接続したときは、映像端子（黄色）は接続しません。

㊵など：接続する端子の色

①など：接続する順番の例

：信号の流れ

※ 市販のS映像コードを接続したときは、映像端子㊮は接続しません。

お知らせ

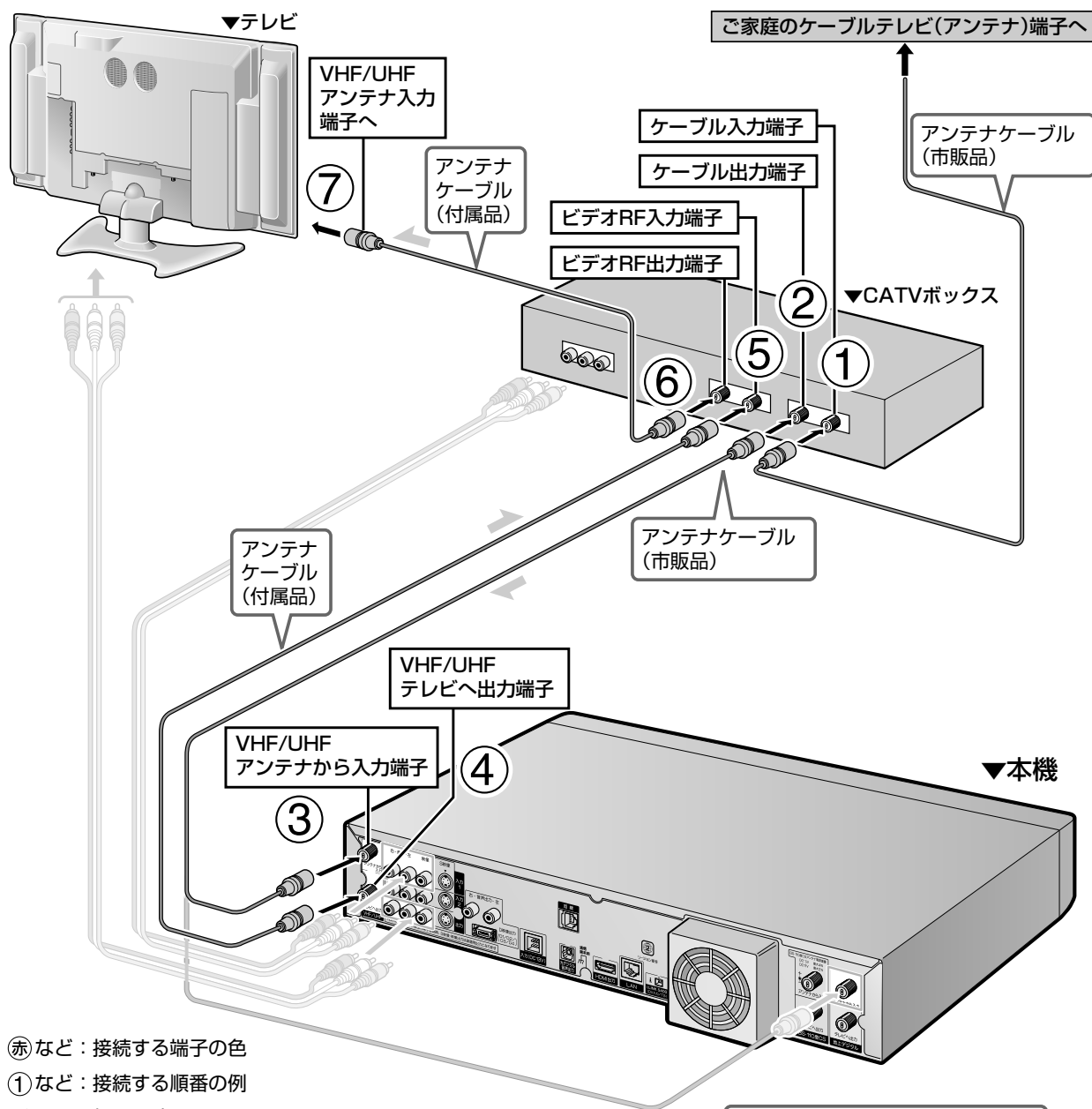
- BS/CS機器との接続については、BS/CS機器の取扱説明書もあわせてご覧ください。
- CSチューナーなどのi.LINK(TS)端子と本機のi.LINK(DV入力/TS)端子は接続できません。
- BS/CS機器の映像を本機で録画するときは、BS/CS機器の映像・音声出力を本機の入力1または入力2（映像・音声入力）と接続してください。
- テレビにD映像入力端子が付いている場合は、D映像ケーブルでの接続をおすすめします。

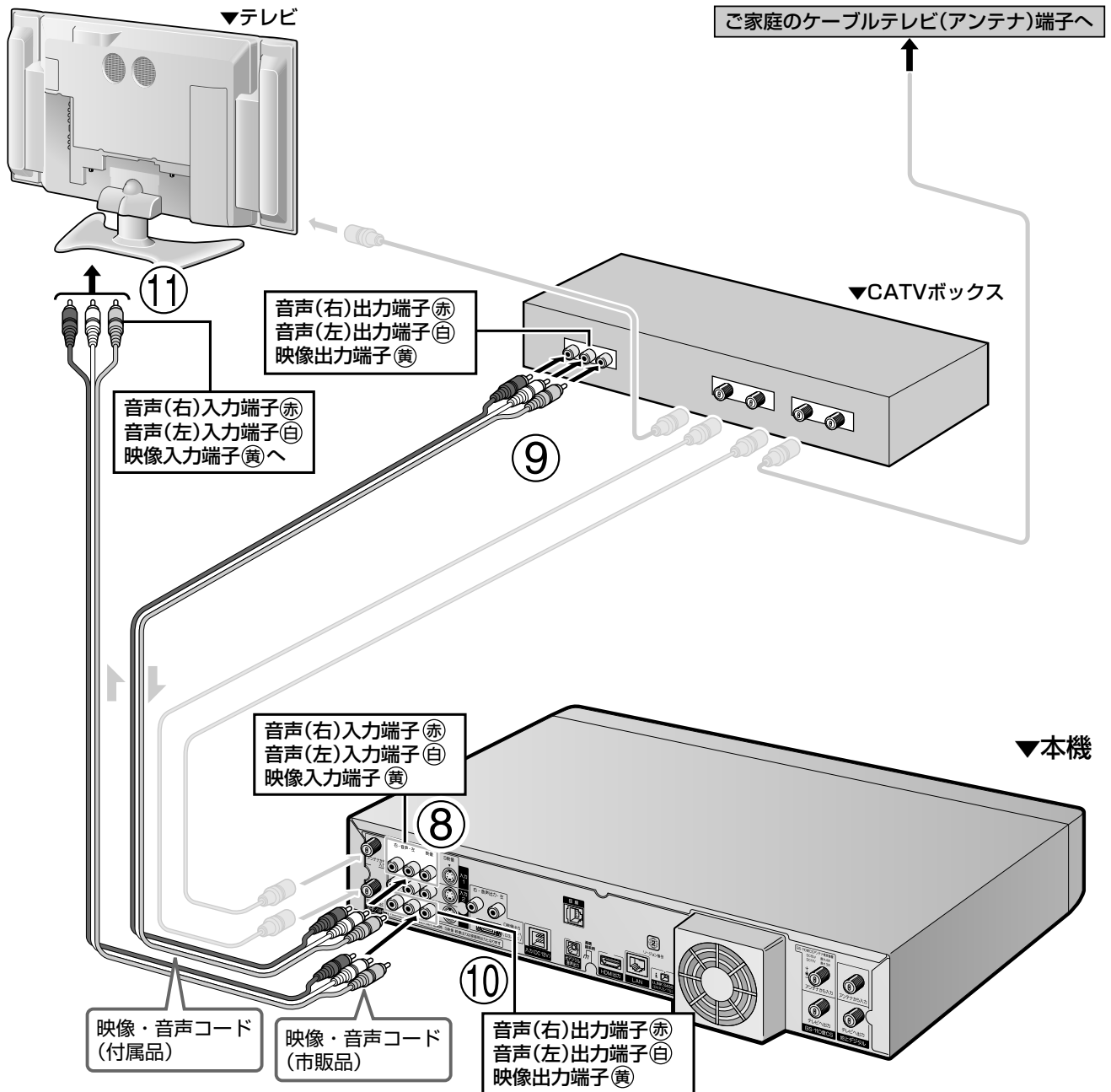
CATVボックスとの接続

■ まず、アンテナ線を接続します

ケーブルテレビの接続のしかたはCATVボックスにより異なります。接続について詳しくは、CATV会社にお問い合わせください。

（接続例）

お知らせ

- CATVを受信するときは、使用する機器ごとにCATV会社との受信契約が必要です。
  さらにスクランブルのかかった有料放送の視聴・録画には、ホームターミナル（アダプター）が必要になります。
  詳しくはCATV会社にご相談ください。
- CATV会社でUHF帯域にパススルー方式で地上デジタル放送の再送信を行っている場合は、CATVボックスを利用し本機の地上デジタルチューナーで地上デジタル放送を受信して楽しめます。（詳しくはCATV会社にお問い合わせください。）
- テレビにD映像入力端子がついている場合は、D映像ケーブルでの接続をおすすめします。

■ 次に、映像・音声コードを接続します。

㊡など：接続する端子の色

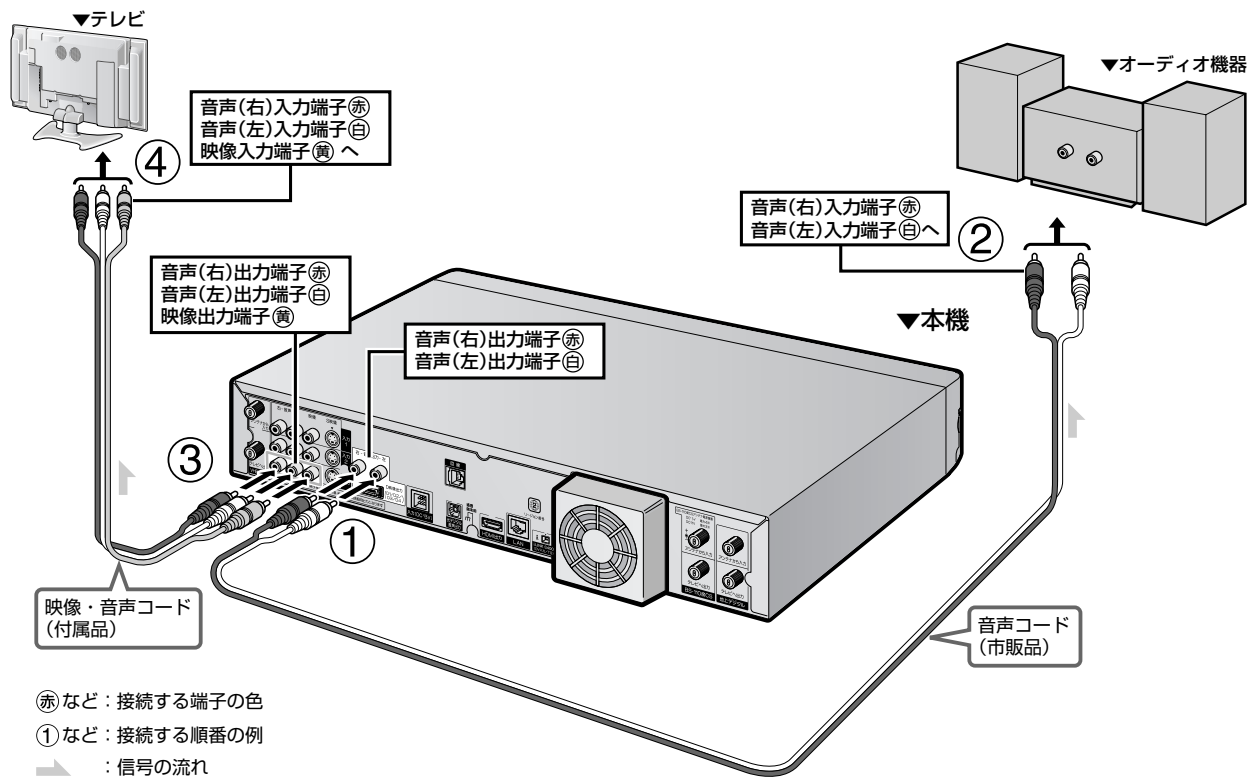
①など：接続する順番の例

：信号の流れ

オーディオ機器との接続

step1 アンテナ線を接続する → step2 テレビと接続する → AV機器やBS/CSチューナーなどを接続するとき

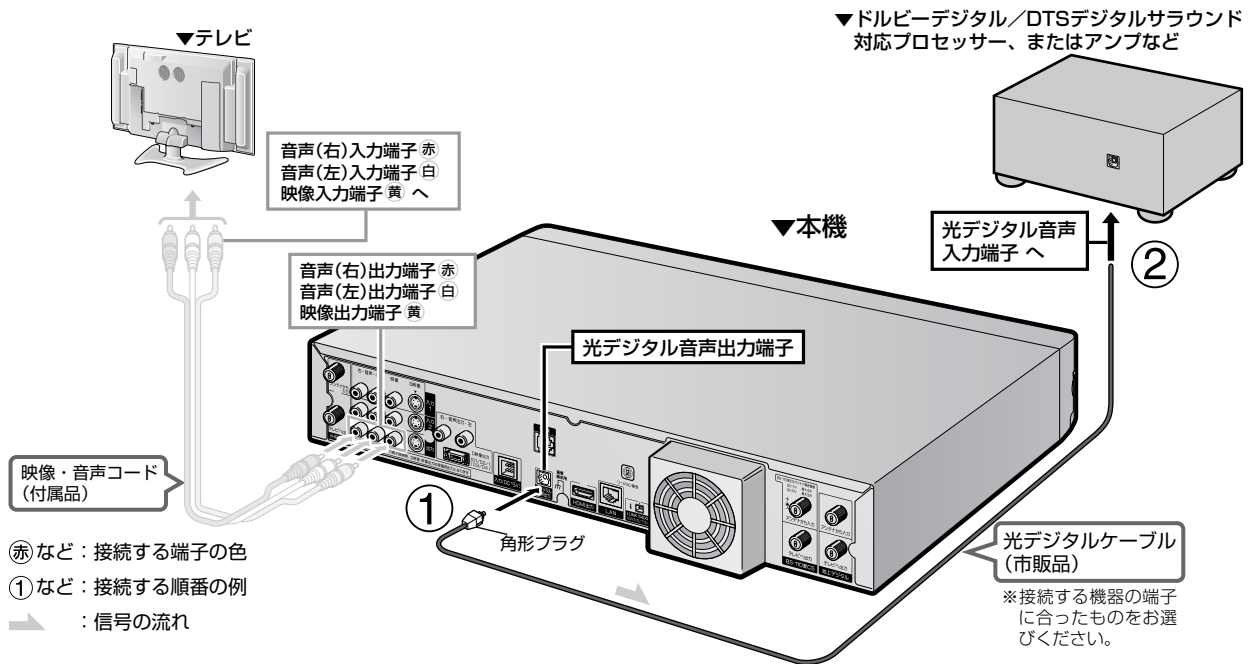
アナログ接続で音声を楽しむとき

本機の音声を 2ch オーディオ機器で楽しむときは、下記のように接続してください。

市販の音声コードを使ってオーディオ機器と接続したときは、「かんたん接続」(**51** ページ）で次のように設定してください。

設定する項目	選ぶ内容	設定し直すとき
オーディオ機器	「ステレオオーディオ」	「スタートメニュー」－「各種設定」－「かんたん接続」で設定し直します。(**51** ページ)

※ オーディオ機器と接続したときは、「DVD 音声出力レベル」を「ノーマル」に設定することをおすすめします。「シフト」に設定するとディスク再生時に音声が正常に聞こえない場合があります。

デジタル接続で音声を楽しむとき

本機の音声を光デジタル端子付きオーディオ機器で楽しむときは、下記の接続をしてください。

本機は、通常のステレオ音声に加えドルビーデジタル(5.1ch)/AAC や DTS の、迫力ある音響効果を楽しむことができます。

- ドルビーデジタル/AAC/DTSデジタルサラウンドプロセッサーまたはドルビーデジタル/AAC/DTSデジタルサラウンドデコーダー内蔵アンプと本機を光デジタル接続することにより、大迫力の臨場感あふれるサラウンド音声を楽しむことができます。
- DTS デジタルサラウンド音声を楽しむときは、DVD 再生時にディスクメニューで DTS 音声を選ぶか、リモコンの音声切換ボタンで DTS 音声を選んでください。音声の選びかたについては、2. 操作編 **84・90** ページをご覧ください。
- DTS 音声を楽しむには、DTS デジタルサラウンドデコード機能搭載のプロセッサーまたはアンプが必要です。

お知らせ

■デジタル音声出力について

- 二ヶ国語放送や二ヶ国語放送を録画したタイトルの再生では、音声の切り換えはできません。（プロセッサーまたはアンプに音声切換機能があるときは、オーディオ機器側で切り換えてください。）
- 音楽用CDを再生したとき、音声の切り換えはできません。
- 96kHz/24bit（LPCM）音声を楽しむときは、96kHzに対応しているプロセッサーまたはアンプが必要です。

■MDとデジタル接続し、CDを録音して楽しむとき

本機とMDをデジタル接続しCDをMDに録音したときに、CDとMDの曲番（トラック番号）が一致しないことがあります。

■DTSデコーダーを内蔵していないデジタル入力付きのオーディオ機器やMDプレーヤーとデジタル接続したとき

DTSで記録されているディスクは正常な音声がでません。

市販の光デジタルケーブルを使ってオーディオ機器と接続したときは、接続するプロセッサーやアンプ、オーディオ機器の種類に応じて、かんたん接続設定（**51** ページ）で次の設定を行ってください。

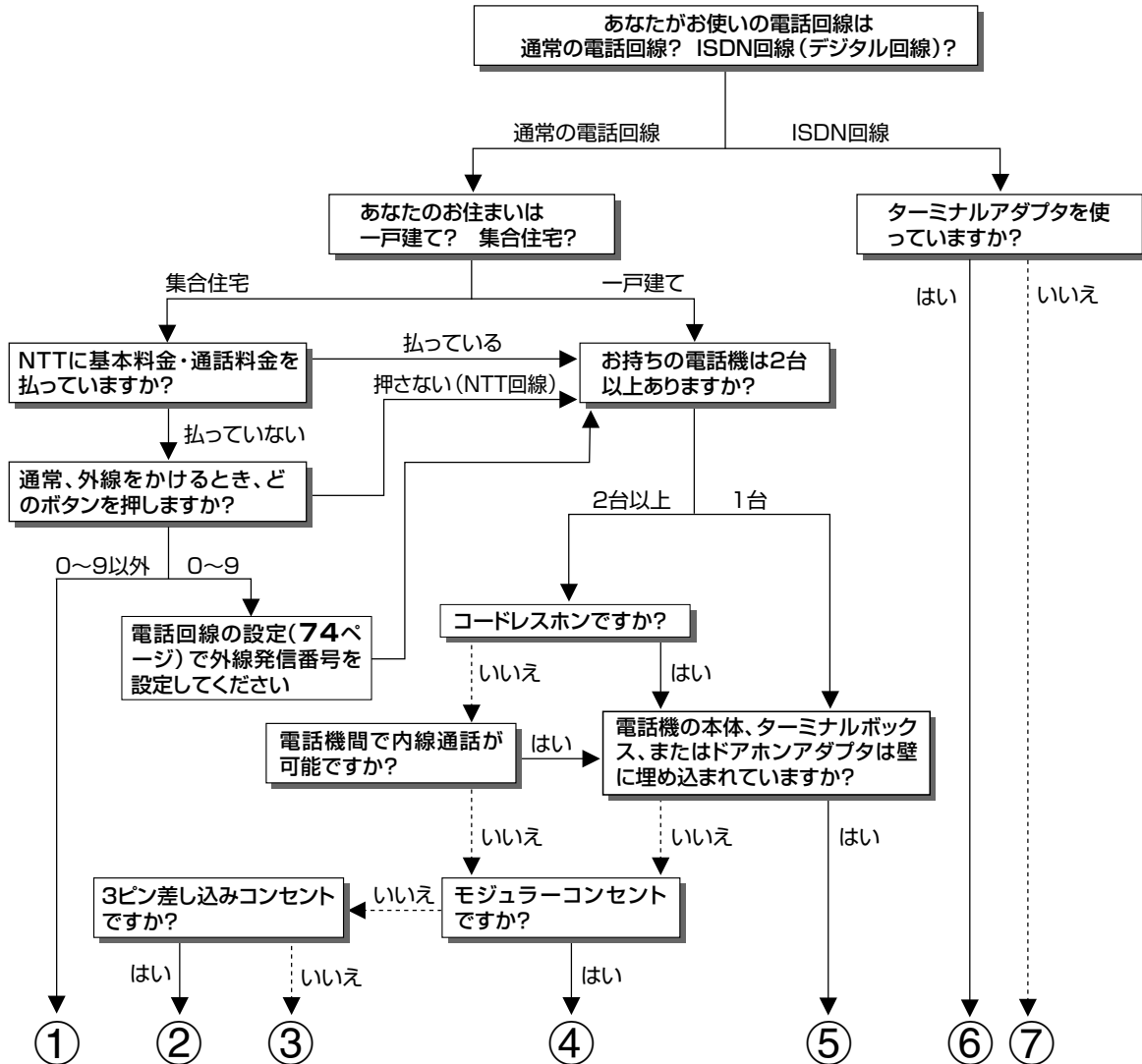
設定する項目	接続する機器			選ぶ内容	設定し直すとき
オーディオ機器	2chオーディオ機器	―――	―――	ステレオオーディオ	「スタートメニュー」－「各種設定」－「かんたん接続」で設定し直します。（**51** ページ） •「各種設定」の「設置調整」－「映像・音声設定」でも設定し直すことができます。（2. 操作編 **167** ページ）
	5.1ch オーディオ機器	「AAC デコーダー」	内蔵している	「5.1ch オーディオ」－「AAC デコーダー対応」	
			内蔵していない	「5.1ch オーディオ」－「AAC デコーダー非対応」	
		「ドルビーデジタルデコーダー」	内蔵している	「5.1ch オーディオ」－「ドルビーデジタルデコーダー対応」	
			内蔵していない	「5.1ch オーディオ」－「ドルビーデジタルデコーダー非対応」	

正しく設定されていないと、正常な音声が出力されません。
※ハードディスク（HDD）再生時も同様の出力となります。

電話回線に接続する

- 本機は、双方向番組への参加や受信契約状況の確認、番組購入情報データの送受信を、電話回線を使って行っています。
  ご使用の前に必ず電話回線に接続してください。

● 接続形態確認チャート

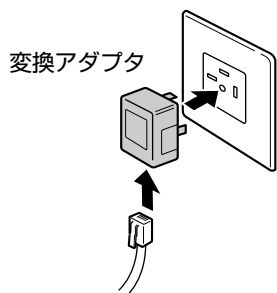
- 下の確認チャートで電話回線の状態を確認した後、接続してください。
- また、詳細はNTTにお問い合わせください。

①マンション交換機（PBX）を使用している可能性が大きいので、交換機を通さない電話回線につないでください。
②市販の３ピンプラグからモジュラージャックへの変換アダプタをお求めください。
③専門業者によるモジュラーコンセントへの変換工事が必要です。
④付属の電話線とモジュラー分配器のみで接続可能です。（**41** ページ）
⑤専門業者による分岐工事が必要です。
⑥本機をターミナルアダプタに直接つないでください。
⑦ターミナルアダプタ（市販品）を使用し、本機をターミナルアダプタに直接つないでください。詳しくは、お使いのターミナルアダプタの取扱説明書をご覧ください。

※③、⑤ についての詳細は、お近くのNTT営業窓口にお問い合わせください。

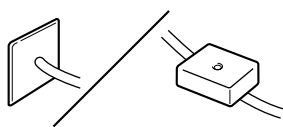
つぎの電話回線では注意が必要です。

■ 電話回線がモジュラージャックでない場合は

●3ピンプラグの場合

市販の3ピンプラグからモジュラージャックへの変換アダプタをお求めください。

●直結配線方式の場合

簡単な工事が必要です。

詳細はお近くのNTT営業窓口にお問い合わせください。

■ 構内電話（ビジネスホン／ホームテレホン）では

そのままでご利用になれないこともあります。その場合は単独の回線でのご利用をおすすめします。

詳細は電話設置会社にご相談ください。

■ キャッチホンでは

通信の途中でキャッチホンが入ると通信が切断されます。これを防ぐため、キャッチホンⅡへのご加入をおすすめします。

詳細はNTT営業窓口にお問い合わせください。

■ 直接デジタル回線に接続することはできません

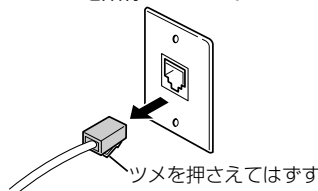
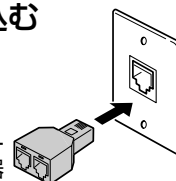
会社やホテルなどでご使用になる場合は、電話回線が一般回線（アナログ）であることをご確認のうえご利用ください。ISDNなどのデジタル回線に接続する場合は、ターミナルアダプタ（TA）等の端末器を介して接続してください。

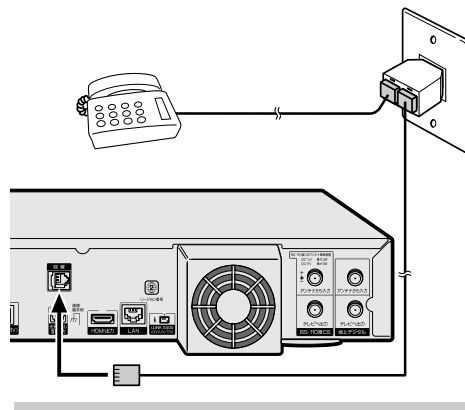
● 接続のしかた

重要

- 電話線のプラグは奥まで完全に差し込んでください。
- 接続をするときは、本機や接続する機器の保護のため、電源を切ってください。
- 電話線のプラグを抜くときは、コードを引っ張らずにプラグを持って抜いてください。

1 本機と電話機の電源を切る

2 電話機の接続線（モジュラー線）を電話線コンセントからはずす

3 付属のモジュラー分配器を電話線コンセントに差し込む

4 電話機の接続線（モジュラー線）をモジュラー分配器の一方に差し込む

5 付属の電話線をモジュラー分配器のもう一方と本機後面の電話回線端子につなぐ

お知らせ

- 視聴記録データの自動送信中は電話機を使用しないでください。視聴記録データの自動送信中に電話をかけると、通信が切断されることがあります。通信中はデータ通信音（ピーヒョロヒョロ…）が聞こえますので、その間は電話をしないでください。
- 本機が放送局と通信しているとき、接続している電話機やファクシミリが鳴る場合がありますが、異常ではありません。

リモコンと本機の準備

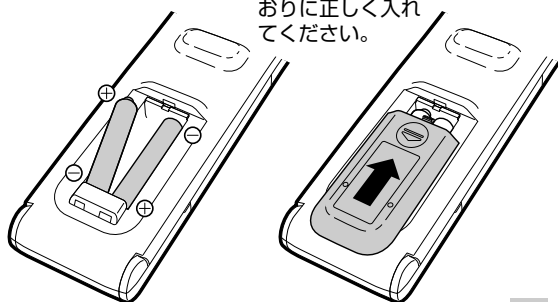
● リモコンに乾電池を入れる

1 裏ぶたを開ける

● 矢印の方向に裏ぶたを開けます。

2 乾電池を入れ、裏ぶたを閉める

● 付属の乾電池〈単4形×2個〉を、収納部の⊕⊖の表示どおりに入れてください。

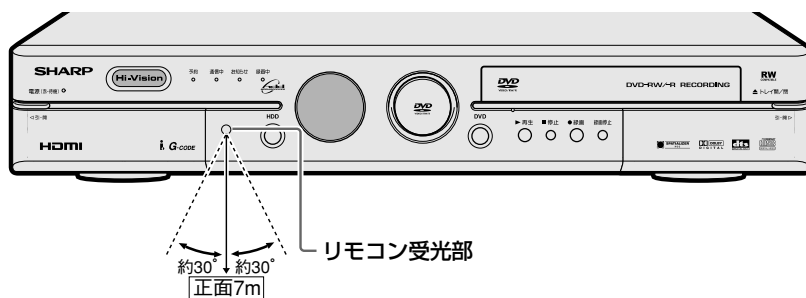
■乾電池は誤った使いかたをすると、液もれや破れつを起こすことがありますので、次の点について特にご注意ください。

⚠ 注意

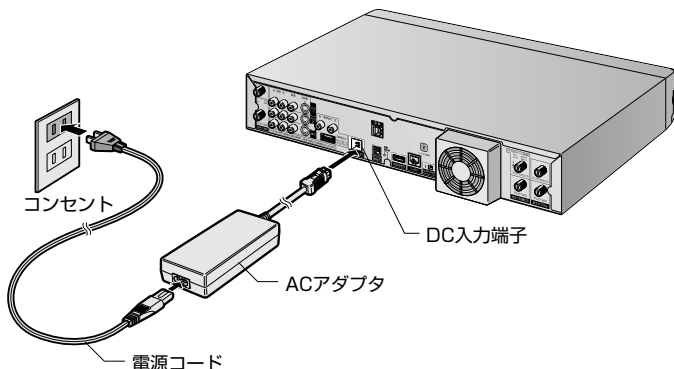
- **乾電池のプラス⊕とマイナス⊖を、表示のとおり正しく入れてください。**
- **乾電池はショートさせたり充電したり分解したりしないでください。**
- **乾電池は種類によって特性が異なります。**種類の違う乾電池は混ぜて使用しないでください。
- **新しい乾電池と古い乾電池を混ぜて使用しないでください。**新しい乾電池の寿命を短くしたり、古い乾電池から液がもれるおそれがあります。
- **乾電池が使えなくなったら…**
  液がもれて故障の原因となるおそれもありますのですぐ取り出してください。また、もれた液に触れると肌が荒れることがありますので、布でふき取るなど十分注意してください。
- **不要となった乾電池を廃棄する場合は、各自治体の指示(条例)に従って処理してください。**

重 要

- リモコンには衝撃を与えないでください。
- リモコンを水に濡らしたり湿度の高いところには置かないでください。
- 乾電池を入れ換えたとき、リモコンが正しく動作しないことがあります。
  このようなときは、乾電池をいったんリモコンから取り外し、5分以上たってから入れ直してください。
- 本体のリモコン受光部に直射日光や強い照明が当たっていると、リモコンが正しく動作しないことがあります。照明または本体の向きにご注意ください。
- **付属の乾電池は、保管状態により短期間で消耗することがあります。**早めに新しい乾電池と交換してください。
  (寿命は通常6カ月〜1年が目安です。)
- 長期間使用しないときは、乾電池をリモコンから取り出してください。

● リモコンの操作範囲

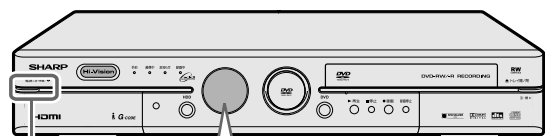
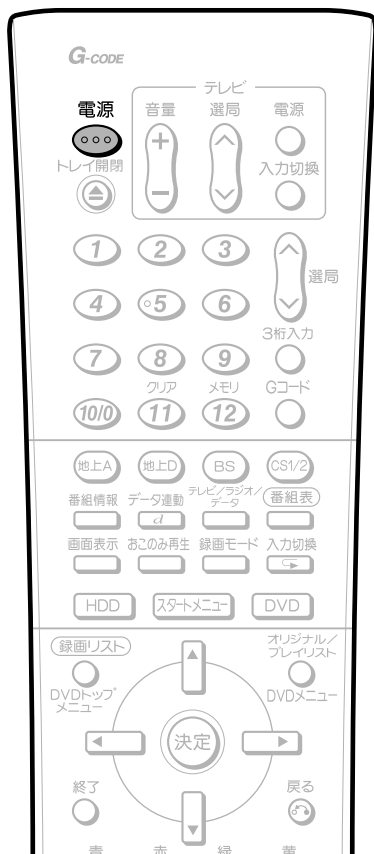
本体前面

●ACアダプタを接続する

• 本機とACアダプタを接続します。

1 電源コードをACアダプタに接続する

2 本機後面にあるDC入力端子にACアダプタを接続する

3 電源コードの電源プラグをコンセントに差し込む

● 本機の電源が切れているときは、電源ボタンの待機ランプ(赤色)が点灯します。電源プラグを差し込んだときは、自動的にハードディスク(HDD)の信頼性を確認するため、電源ボタンの待機ランプが点灯するまでに多少時間がかかります。電源ボタンの待機ランプが点灯するまでお待ちください。(電源ボタンの待機ランプ点滅中はシステム準備中のため、電源「入」にできません。)

● 電源を入れる／切る

お知らせ

● 本機の電源プラグをコンセントに差し込んで、待機ランプが点灯してから本機の電源を入れてください。

1 リモコンの(電源)、または本体の電源ボタンを押し、本機の電源を入れる

● 電源を入れると、本体のランプが点滅します。点滅しているときはシステム処理を行っておりますので、点滅が終了するまでお待ちください。
● はじめて電源を入れたときは、初期設定画面になります。(**45**ページ)

2 リモコンの(電源)、または本体の電源ボタンを押し、本機の電源を切る

● 本体の前面の液晶表示部が消灯し、電源ボタンの待機ランプが点灯します。
● 電源を切った直後は、再度電源ボタンを押しても電源が入らない場合があります。
そのようなときは少し待ってから再度電源を入れてください。

• ご使用の際は、電源コードおよびACアダプタのDCケーブルを束ねずに引き伸ばしてご使用ください。
• 機器間の相互干渉による映像の乱れや雑音等を避けるため、電源コードや他の接続コード類をアンテナ線からできる限り離してご使用ください。